

方、本調査妊婦のHCV抗体陽性率については、全国および中国地方の供血者集団の値とほぼ同等の値を示した。

6) 岩手県におけるHBV genotypeA感染の広がりとその特徴

1915年～1981年に出生した受診者について、出生年別にHBs抗原陽性率を見ると、出生年1917年(4.58%)と、出生年1947年(2.77%)と出生年1968年(2.08%)にピークが認められた。

また、岩手県の出生年1968年群を中心としたHBs抗原陽性率のピークは、某地域で、HBV genotypeAの水平感染が起きたことが影響しているものと考えられた。

7) C型肝炎ウイルス(HCV)の感染御抗体に関する検討-ヒト肝細胞置換キメラマウスを用いた感染実験-

C型肝炎ウイルス(HCV)の感染防御抗体に関する検討-ヒト肝細胞置換キメラマウスを用いた感染実験-を行った結果、HICG候補による受動免疫による感染防御能は、HCIG候補作製時にプールされた血漿のgenotypeと感染材料のgenotypeの相違性が影響を与えることが示唆された。

8) In-vivoにおけるHBs抗体の感染阻止定例についての検討-ヒト肝細胞置換キメラマウスを用いた感染実験-

感染阻止と感染成立は、HBV接種時のHBs抗体価に依るのではなく、経過中の全HBs抗体量に依ることが示唆された。

(2) HBV・HCV感染状況、キャリア数患者数、HCV検査手順

1) 数疫学モデルを用いた肝癌死推移の要因解析の試み

1. 本研究では疫学班で蓄積された出生年別HBV,HCVキャリア率と肝癌死亡者数(人口動態統計)を用いて、肝癌死亡の要因解析の疫学数理モデル(APCモデルおよび年齢・時代・肝炎ウイルスキャリア率モデル:APCaモデル)を構築した。
2. APCモデルおよび年齢・時代・肝炎ウイルスキャリア率モデル(APCaモデル)により1940-2010年の肝癌死亡に関して年齢要因、

時代要因、出生コホート要因の3要因による再現性は高く、男女とも決定係数 R_{2cor} は0.99以上であった。

3. 次に、APCモデルを用いて推定した年齢、時代、出生コホート効果(effect)を用いて2010年の肝癌死亡率を予測算出し、実死亡率との比較を行った。男性では、推定肝癌死亡率と比し、実肝癌死亡率は低い値を示した。
4. これは、90年代以降の治療や検査の推進等を含む時代効果により肝癌死亡が抑制されたことを示すと考えられ、わが国における肝炎・肝癌治療や肝炎ウイルス検査等の医療・行政効果をはじめて数量的にあきらかにした。
5. 女性については、肝発がん年齢や肝発がん率など肝病態の進展が男性とは異なることから、肝硬変死亡を含んだ肝疾患関連死亡を対象とした解析が今後必要であると考えられた。

2) 肝癌死地域間の空間解析の試み

肝癌の1971年から2005年を5年ごとに区分して求めた市町村別SMRベイズ推定量のうち、2001-05年の埼玉県市町村別SMRと社会経済指標との関連、および全国都道府県別SMR(1986-90年～2001-05年の4期間)と民力指標(1989-2005年)などとの関連についてGISソフトを用いて検討し、地域差のある疾患の要因分析にGISが有効であることを示した。

3) 大規模集団の成績からみた地域別HCV、HBVキャリア率と推計HCV、HBVキャリア数

1. 大規模集団の成績からみた地域別HCV、HBVキャリア率と推計HCV、HBVキャリア数の検討では、2005年時点、自覚症状がないまま社会に潜在している無症候性HCVキャリアの推計数は、807,903人(95%CI:68.0-97.4万人)、HBVキャリアの推計数は、903,145人(95%CI:83.7-97.0万人)となった。2005年時点の国勢調査人口は、1億2728.6万人であることから、全人口に占める「自覚症状がないまま社会に潜在している無症候性キャリア」推計数の割合は、HCVでは0.63%、HBVでは0.71%となった。
2. (感染を知らないまま)潜在しているキャリア数は、HCVキャリア数およびHBVキャリア数ともに2000年時点に算出された値と比較すると減少した。検診を含めた様々な場における検査が普及したことによると考えられる。
3. 検査の普及とともに、患者として通院・入院するキャリアが増加したことが期待される一方、感染が判明しても、医療機関への受診に結びついていないキャリアの存在の規模や、

その理由などについて検討する必要があると考えられる。また、検査未受診と考えられるキャリアが、未だ相当数存在することが明らかとなったことから、さらに地域・年齢などの特性に応じた効果的な肝炎ウイルス検査の推進が必要であることが、示唆された。

4) 診例報酬記からみた肝疾患関連患者数の推計の試み

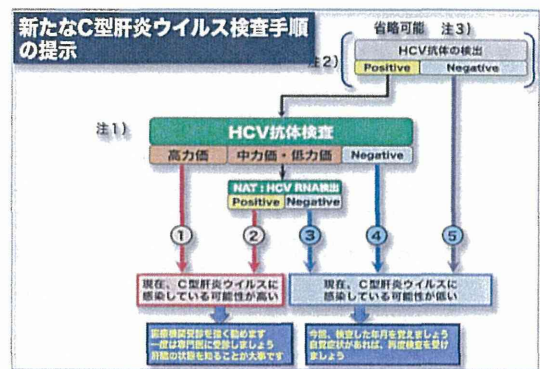
- 20の健保組合における本人および家族を含む60~79万人の全診療報酬記録を元に、2008、2009、2010年それぞれの年における64歳以下の肝疾患関連患者数の推計を行った。
- レセプトデータを元に算出した推計値であるが、個人IDを用いて時系列に検討することにより、疑診例・重複症例・検査目的の診断名記載症例を可能な限り除去した。
- 無症候性キャリアの診断名の患者受診者は、当然ながら少ないことが明らかとなった。
- 64歳以下の集団では、慢性肝炎は、99.7~111.8万、肝硬変は5.3~6.1万人、肝癌は3.8~5.2万人となり、肝疾患関連患者数全体では112.4~126.2万程度と算出された。また、A型肝炎ウイルス、E型肝炎ウイルスを除く急性肝炎は1万人前後と推計された。
- また、B型肝炎ウイルス及びC型肝炎ウイルス由来に限定した、肝疾患関連患者数について推計を試みた結果、64歳以下の集団では、無症候性キャリアは2.8-3.2万人、慢性肝炎は47.6-52.0万、肝硬変は2.3-2.9万人、肝癌は2.9-3.7万人となり、肝疾患関連患者数全体では56.4-61.7万(45.0-73.1万人)と算出された。HBV、HCV由来の急性肝炎は0.2-0.4万人(0.0-1.6万人)と推計された。
- 本検討では64歳以下に限っている。特に、肝硬変や肝臓癌の患者数は、65歳以上の年齢層で特に多いことを考慮に入れることが重要である。

5) 「HCVキャリアを見出すための検査手順」の検討【検査手順の妥当性と、検査手順の見直しに関わる検討】

- 2013年4月1日から、健康増進事業による肝炎ウイルス検査(HCV)、特定感染症等検査事業による肝炎ウイルス検査(HCV)は、今回提示した「新たなC型肝炎ウイルス検査手順」を用いて、検査が実施に移されている。
- 今回提示した「新たなC型肝炎ウイルス検査手順」(別途、記載)では、HCVキャリアを見出す検査の目的から、これまで通り、測定レンジが広くかつ高力価・中力価・低力価に

適切に群別することができる『HCV抗体検査』を用いることを推奨した。

- 一方『HCV抗体の検出』試薬の開発・改良が進み、感度及び特異度の高いものが広く普及している現状をふまえると、肝炎ウイルス検診事業をさらに普及させるためには、ARCHITECTおよび同等の高い精度を持つ『HCV抗体の検出』試薬を取り入れ、かつ、現行の検査手順と同等のスクリーニングレベルを維持できる新たな検査手順を提示する必要がある、という理由から、『HCV抗体の検出』試薬を省略可能な選択肢として検査手順に加えた。
- 今回の検査手順の変更に伴う妥当性について、引き続き検討を行う予定である。



II. 感染後の長期経過と予後調査に関する研究

(1) B型肝炎、C型肝炎の自然経過、長期予後

1) 献血を契機に見されたHCVキャリアの追跡調査

献血を契機に判明した無症候性HCVキャリア1,020例のうち54%では、初診時すでに臨床的に慢性肝炎かそれ以上に肝疾患が進展していた。このことから、住民検診や職場での健康診断を契機にHCVキャリアと判明した場合でも、同様の結果が得られるものと推測された。

調査開始より18年目の調査(2009年)では、75%(治癒例も含む)が受診継続をしておらず、1日のみの受診も含めて1年未満で受診を中止したものが約30%であった。今後の検討課題と考えられる。

IFNによる抗ウイルス療法を施行せず、観察期間中にHCV RNAが消失した3例のIL28B SNPs genotypeは、自然治癒と関連が指摘されているタイプのメジャーアレルであつ

た。初診時「異常を認めず」と診断された HCV キャリアからの HCVRNA 自然消失率は、1 万人年あたり 13.2 人であった。

2) 血液透析患者における \square 後と肝炎ウイルス感染状況

血液透析患者における生命予後とウイルス感染との関連性に関する分析の結果、単変量生存分析（解析対象者数 2,906 名）では、HCVRNA 陽性群は陰性群と比べ生存率が有意に高くなった（Log-rank、 $p < 0.05$ ）が、複数の交絡要因を調整し（Cox 比例ハザードモデル）検討した結果、「糖尿病がある」と「透析開始時年齢」が高いことが、全死亡のリスク要因としてあげられた。

3) 肝炎ウイルス持続感染者の \square 態推移に関する数 \square 疫学的研究

1. 治療介入のない場合の自然経過を検討するためのツールとして markov モデルによる推定は有用であることが明らかとなった。累積肝発がん率を検討した結果、HBV および HCV 持続感染者共に、適切な時期に適切な治療介入の必要性が示唆された。
2. 治療介入のない、HCV キャリアの病態推移は、男性は女性よりも肝病態の進展が早く進行する。年齢により、肝病態の進展が異なり、高年齢では進展率が高くなる。
3. 治療介入群では、累積肝発癌率が男女とも低く、最終的に約 8 割が CR（治癒）と推定された。
4. 治療介入のない、HBV キャリアの病態推移は、男性では肝癌への累積罹患率は女性より高く、また、女性では肝硬変への累積罹患率が男性と比べ高い。
5. Genotype C 症例のみ抽出し解析すると、40 歳 B 型慢性肝炎からの累積肝発癌率は 50 歳男性 4.4%、60 歳男性 20.6%と、HBV 全体と比べやや高い値を示した。
6. 住民検診群のうち、セロコンバージョンを起こした 741 人を対象とした解析により、20 歳無症候性キャリアからの病態推移は多岐にわたることが明らかとなった。
7. HBV 持続感染者の長期間にわたる病態推移の相違には、genotype などウイルス要因と同時に宿主側の遺伝子の相違に起因するとも推察され、今後の検討が必要である。

4) わが国における肝癌診断の動向と肝癌の段階的進行過程

日本で通常発見される 3cm 以下の「初期」肝細胞癌の段階的進行過程を明らかにし、「中期」「晩期」の肝癌段階の位置づけを長期経過から明らかにした

早期の小型で発見される肝癌は、反復して「根治的」な治療を繰り返して行いつつ病期が進行する状態が明らかとなった。この間に、自然経過もしくは治療介入による肝機能の悪化が緩徐にみられ、中期肝癌・晩期肝癌になり、生命予後を脅かす状態に進む。

この治療経過で、肝細胞癌の治療を十分に行いながら、肝機能を悪化させないことが重要であることが示されたとともに、治療方法の選択・治療回数・治療時期などを考慮したうえで、医療経済・QOL などを含めて、総合的な患者予後を考慮していくべきであると考えられた。

5) わが国の肝癌診 \square の実態と医 \square 経済

3cm 以下で発見され肝切除・ラジオ波凝固療法が行われた例について、反復再発の実態、反復入院治療の実態を、医療経済の観点から明らかにした

小型少数で発見された肝癌は肝切除か RFA で治療されることが多いが、再発率は高く、反復治療が必要である。全体としての 50% 生存期間は 8.3 年で、この間に中央値で 5 回の入院、131 日の入院日数、391 万円の入院治療費を使用していた。

QOL を考慮すると、5 年間の生命予後延長に対する費用効果比は良好と考えられる。

6) C 型 \square 性肝疾患における治 \square 介入の時期と \square 後に及ぼす影響

C 型肝炎の治療の究極の目的は肝癌発癌予防にあるといってもよい。この観点から、C 型慢性肝疾患に対する治療介入の時期について治療効果と医療経済について検討した。

慢性肝炎時期にインターフェロン治療を行えば、SVR 率が高いことに加え、発癌ハザードを 0.10 にまで低下することができる。しかし、慢性肝炎は肝癌発癌リスクの低い病態であり、無治療でいてもそれほど発癌を見ない群である。一方、肝硬変時期になってインターフェロン治療を行うと、SVR 率が低いことに加え、発癌ハザードは 0.35 にしか下がらない。しかし肝硬変は本来肝癌発癌率が極めて高い病態であり、100 人にインターフェロン治療を行ったと仮定した場合には、発癌を免れる症例は 10.0 例と計算され、慢性肝炎での 7.4 人より、「効率よく」発癌抑制症例を得られる計算である。

個人の立場では慢性肝炎の早期の状態でのウイルス排除が最も大切であるが、社会の立場では、肝硬変になってしまっても発癌抑制の観点からは抗ウイルス療法を積極的に行っていくことが重要である。

7) Community-based cohort からみた B 型肝炎の長期後の検討

Community-based cohort からみた B 型肝炎の長期予後の検討では、長崎 G 地区の住民コホートから、B 型肝炎群 1045 例と、1:2 マッチングをした一般住民群 (Ct 群) 2,090 例を対象に、endpoint を総死亡として Cox 比例ハザードモデルで検討を行った。その結果、HBV キャリアは無症候性キャリアとなった状態においても、HBs 抗原が消失しない限り、肝疾患関連死亡に注意しながら診療管理を継続する必要がある。B 型肝炎は、HBs 抗原が陽性であれば、無症候性キャリアに至っても予後は不良であることが明らかとなった。

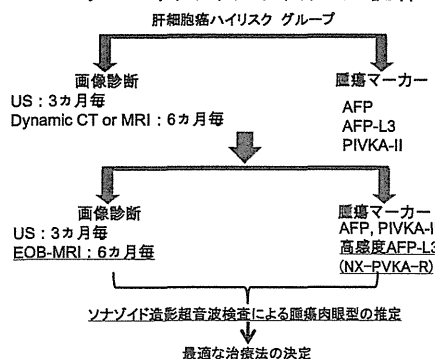
(2) 肝がん早期発見のためのプロトコル

1) 肝細胞癌の早期発見および患者後の改善するための新しいサーベイランスシステムの構築

NX-PVKA-R や高感度 AFP-L3 を従来の腫瘍マーカーに加え、ダイナミック CT に変わってプリモビスト MRI をサーベイランスに用い、かつソナゾイド超音波検査で腫瘍肉眼型を予測し適切に外科的切除とラジオ波焼灼療法の選択が行われることにより従来よりも早期に肝細胞癌症例を検出し適切な治療法により予後改善が可能と考えられた。

肝細胞癌の早期発見のためのサーベイランスシステムを構築した。(図.)

図 5 肝細胞癌早期発見、予後改善のためのサーベイランス システムの提唱



2) 岡山県肝炎ウイルス検診阳性者の追跡調査とその後の改善のためのフォローアップ手段についての検討

肝炎ウイルス検診において感染を初めて指摘されたキャリアの追跡調査から、未だ肝臓専門医によるフォローアップ率は満足のいく結果でないことが明らかにされた。

また画像診断の進歩により多血化する以前の前癌性病変ともいべき肝乏血性腫瘍の検出やその癌化への過程が確実に診断できるようになった今日において、肝臓専門医による肝炎ウイルスキャリアのフォローアップの意義はさらに大きくなったと言える。

事実、専門医のフォローアップによって発見された初発 HCC の予後が有意に良好であったことから、肝炎ウイルスキャリアの予後改善のためには肝臓専門医を含めた病診連携の重要性が確認された。

肝臓専門医による肝炎ウイルスキャリアのフォローアップ体制の更なる充実の必要性が再認識された

3) 高感度 AFP-L3%による肝細胞癌の癌後測

高感度 AFP-L3 分画の測定法が開発され、従来測定の信頼性が低かった AFP 低濃度域 (AFP20ng/mL 未満) での AFP-L3 値の測定が可能となった。この方法を用いて発癌予測が可能かどうかについて検討した結果、AFP 値の上昇の認められない症例においても AFP-L3 値の上昇が認められれば、HCC の発生が疑われるため、頻繁な AFP-L3 の測定および CT/MRI を含めた積極的な画像診断による診断が必要と考えられる。

4) 高感度 AFP-L3 測定によるサーベイランスでの早期段階での肝細胞癌の診断

高感度 AFP-L3 分画の測定法が開発され、従来測定の信頼性が低かった AFP 低濃度域 (AFP20ng/mL 未満) での AFP-L3% の測定が可能となった。この方法を用いて 1 年前の AFP-L3 値から発癌予測を試みた結果、たとえ US で変化が認められなくても AFP-L3 の上昇を認める症例では積極的に MRI 等の画像診断を行い、早期診断に努めることが予後不良である高感度 AFP-L3 分画高値 HCC の治療成績の改善につながると期待された。

すなわち、診断 1 年前の時点で高感度 AFP-L3 分画の陽性症例に MRI 等を含めた画

像診断を行えば、より早期の発見が可能となり予後の改善が期待される可能性が示された。

専門医療機関への受診や抗ウイルス治療を勧奨していく体制の確立をめざしていく必要がある。

5) HCV キャリアにおける HCVRNA の変動—reference change value (RCV)による解析—

血中の HCVRNA の変動を RCV の手法を用いて検討した結果、抗ウイルス療法の介入のない HCV キャリアの HCVRNA の異常変動は 71 例 (21.1%) に認められたこと。また、異常変動は HCVRNA 低値例、遺伝子型 2 型、AST 高値例、ALT 高値例、血小板低値例で多く認められた。これらのことから、ALT 値等に比して血中の HCVRNA の変動幅は少なく、治療開始のタイミングを得るために、ウイルス量の減少を期待して経過観察するのは現実的でないと考えられた。

3) 肝炎ウイルス検査後の意識動向調査

肝炎ウイルス検査により見出された肝炎ウイルスキャリアの医療機関受診率、専門医受診率、IFN 治療実施率、診断等を把握し、効果的な治療導入を促す対策を構築するための基礎資料として、全都道府県を対象に肝炎ウイルス検査後の意識動向調査を行った。

その中間報告の結果、

自治体が把握している肝炎ウイルス検査受検者が調査対象者にもかかわらず、1 都 5 県 1,241 人中「受検したことを認識していた」のは 84.9%であった。15.1%は、「受けていない」あるいは「わからない」「未記入」と回答し、受検したことを認識していなかった。

肝炎ウイルス検査受検後の医療機関受診率は 79.2%であったが、受検非認識者を含む全体では「医療機関受診率」は、67.3%となった。

医療機関の受診先は、かかりつけ医（非肝臓専門医）受診者は 38.9%、肝臓専門医療機関受診者は 36.8%、かかりつけ医（肝臓専門医）は 28.4%、その他は 5.6%あった（複数回答）。

肝炎ウイルス検査受検後の受診及び受療の勧奨は、検査結果返送時の工夫と、自治体と医療機関の肝臓専門医およびかかりつけ医の連携が必要であることが、中間報告の集計解析から示唆された。

III. 治療導入対策に関する研究

(1) 肝炎ウイルス (HBV、HCV) キャリア対策と治療導入対策

1) 肝疾患診ネットワーク構築後の HCV キャリアの受診行動の実態と今後の課題 (岩手県)

HCV キャリアの診断から医療機関に受診して IFN 治療に至るまでの受診行動の実態を検討した結果、陽性と診断されても肝疾患診療ネットワーク医療機関に受診しない肝炎ウイルスキャリアをなくすためには、市町村の保健師や職域の検診担当者を中心とした肝炎コーディネーター養成が有効と考えられた。一方、HCV キャリアは専門性の高い同一の担当医に通院を継続する傾向があり、今後の診療体制の改善を検討する場合の一助となると考えられた。

4) 石川県肝炎診連携の解析と今後の課題

平成 22 年度より開始した「石川県肝炎診療連携」では、2 年間で県下肝炎ウイルス検診陽性者の 37%が同事業に参加した。初年度は同意した症例の多くが専門医受診を行い、93%で専門医受診時の調査票が回収されたが、翌年度は半年経過の時点で調査票回収は 55.4%であった。

このため再度の受診勧奨を行い、最終的に 65.2%で調査票が回収された。3 年目には定期受診勧奨用パンフレットを同時に送付し、年一回の専門医受診継続を勧めた。

事業開始当初はもともと医療機関受診が定期的になされている症例が参加しており、医療機関への受診が不定期であるような症例の受診動機に繋がるような勧奨、受診された方が脱落しないようなこまめな勧奨が、さらに求められる。

2) ウイルス肝炎治療医療費助成制度の状況調査および肝炎ウイルス検診陽性者に対する追跡調査 (岐阜県)

平成 20 年 4 月から開始となっているウイルス肝炎治療医療費助成制度について、平成 24 年 11 月までの岐阜県における B 型肝炎および C 型肝炎患者の利用状況 (申請件数) の推移や、患者の背景因子、治療内容などについて調査した。

さらに県健康福祉部保健医療課、県医師会、県肝炎対策協議会の協力を得ることができたため、各市町村に依頼して、肝炎ウイルス健診陽性者に対する追跡調査を施行した。

今後は追跡調査結果をもとに、県健康福祉部保健医療課、各市町村、医師会、保健所などと連携をとりながら、肝炎ウイルス検診陽性者の

3) 茨城県における肝炎検診後の診体制の構築について

自治体による 40 歳節目検診による肝炎検査は、節目外検診に比べ陽性率が低いことから、

今後高齢での肝炎節目検診を加える必要性があげられる。

新規HCV治療者へのIFN治療助成受給の減少傾向には改善は見られなかった。

県南医師会と協力し、肝臓専門医を中心に地域肝臓非専門とでsmall groupを構成し、医療推進連携の強化を図り、肝疾患連携パス運用の活性化など一定の成果が得られてきている。今後は、茨城県下に、この治療推進システムを広めていく予定である。

E. 知的財産権の出願・登録

なし

F. 文献

<書籍>

- 1) 片山恵子、田中純子
肝炎・肝癌の疫学
Annual Review消化器,東京,2013,88-93
- 2) 田中純子
肝炎ウイルスの感染予防について
ガイドライン/ガイダンス慢性肝炎,日本医事新報社,東京,2011,14-19
- 3) 田中純子
肺炎ウイルスの感染予防について
ガイドライン/ガイダンス 慢性肝炎,日本医事新報社,東京,2011,14-19
- 4) 田中純子、片山恵子
II.C型肝炎 我が国におけるC型肝炎の疫学--国際比較を含めて--
新時代のウイルス性肝炎学 日本臨牀 増刊号,大阪,2011,15-22
- 5) 田中純子、松尾順子
III.B型肝炎 我が国におけるB型肝炎の疫学--国際比較を含めて--
新時代のウイルス性肝炎学 日本臨牀 増刊号,大阪,2011,327-334
- 6) 田中純子
スクリーニングの理論
予防医学指導士テキスト,日本予防医学会,岡山,2010,145-150
- 7) 田中純子、秋田智之
医用データと統計的推測の考え方
予防医学指導士テキスト,日本予防医学会,岡山,2010,151-156
- 8) 田中純子
医学研究のデザイン
予防医学指導士テキスト,日本予防医学会,岡山,2010,157-159
- 9) 内田茂治、田所憲治
NAT検査法、献血における検出状況
医薬品の品質管理とウイルス安全性 文光堂,東京,2011,83-91
- 10) 日野啓輔
岡山県肝炎対策協議会の肝がん撲滅運動について

-肝炎ウイルスキャリア対策の観点から-

岡山県医師会,岡山,2012,1712-1714

- 11) 日野啓輔、富山恭行、吉岡奈穂子
進行肝癌に対する5-FU動注/IFN治療効果予測因子としての末梢血単核球(PBMC)IFN receptorの意義-a pilot study-, 第28回犬山シンポジウム記録集
肝炎・肝癌の新しい診断と治療
メディカルトリビューン,東京,2011,185-190
- 12) 是永匡紹、池田正徳、加藤宣之、日野啓輔
過剰鉄とミトコンドリア障害が誘導する酸化ストレスはC型肝炎ウイルス増殖を抑制する 第7回「酸化ストレスと肝」研究会記録 酸化ストレスと肝疾患第7巻
メディカルトリビューン,東京,2011,41-46
- 13) 日野啓輔、仁科惣治、是永匡紹
C型肝炎における鉄代謝異常,日本臨床分子形態学会
モノグラフ 病気の分子形態学
学際企画株式会社,東京,2011,112-115
- 14) 池田健次
肝細胞癌の治療
Annual Review消化器 2011 中外医薬社,東京,2011,195-212
- 15) 池田健次、熊田博光
インターフェロン(IFN)によるHCV関連 肝癌根治療法後の再発抑制
Medical Tribune, 犬山シンポジウム記録, 東京,2010,85-92
- 16) 相崎英樹
HCV感染と代謝異常(脂質・エネルギー)
医歯薬出版株式会社,東京,2012,in press
- 17) 相崎英樹
HCV粒子形成に関与する脂肪滴周辺蛋白の同定と機能解析
株式会社メディカルトリビューン,東京
2012,30-33
- 18) 相崎英樹
C型肝炎ウイルスの生活環
ニューサイエンス社,東京,2012,419-422
- 19) 鈴木哲朗、原弘道、相崎英樹、鈴木亮介、政木隆博
C型肝炎ウイルスの複製と粒子形成
雑誌ウイルス,ウイルス学会,東京,2011,87-92
- 20) 相崎英樹、脇田隆字
HCV感染における脂質代謝の変化とメタボロミクス解析
肝胆膵 アークメディア,東京,2011,948-953
- 21) 相崎英樹、鈴木哲朗、脇田隆字
HCV生活環における脂質の役割
日本臨床 日本臨床社,大阪,2011,59-63
- 22) 田中純子、小山富子、相崎英樹
C型肝炎ウイルス(HCV)による感染
日本臨床ウイルス学会 日本臨床ウイルス学会
- 23) 相崎英樹
コレステロールとスフィンゴ脂質のC型肝炎ウイルス生活環における役割
Minophagen medical review, ミノファーゲン製薬,東京,2010,1-10
- 24) 鳥村拓司、佐田通夫
肝・胆道系症候群(第2版) - その他の肝・胆道系疾患を含めて - II. 肝臓編(下) VIII 肝細胞癌 肝細胞癌の類似病変(肝細胞の結節性病変) 肝細胞腺

- 腫
別冊日本臨床 新領域別症候群シリーズ 日本臨床社, 2010, 154-158
- 25) 池上正, 松崎靖司
慢性肝炎患者をどのように指導するか
これでわかる! 慢性肝炎の治療戦略 肝癌を防ぐためのマネジメント 羊土社, 東京, 2011, 129-135
- 26) 本多彰, 松崎靖司
胆道感染症
医学スーパーラーニングシリーズ: 消化器内科学, シュプリンガー・ジャパン株式会社, 東京, 2010, 293-295
- 27) 池上正, 松崎靖司
胆嚢筋腫症, 胆嚢ポリープ
医学スーパーラーニングシリーズ: 消化器内科学, シュプリンガー・ジャパン株式会社, 東京, 2010, 297-298
- 28) 松崎靖司
薬物性肝障害
今日の診断指針(第6版), 医学書院, 東京, 2010, 782-785
- 29) 松崎靖司
肝癌に対する陽子線治療
医学書院・今日の消化器疾患治療指針(第3版), 医学書院, 東京, 2010, 660-661
- 30) 松崎靖司
胆汁うっ滞性肝障害
疾患と治療薬 (改訂第6版), 南江堂, 東京, 2010, 268-270
- 31) 松崎靖司, 本多彰, 池上正
胆汁酸とその分画, 各種抱合体分画
日本臨床・血液・尿化学検査 免疫学的検査(第7版) 2, 日本臨床社, 大阪, 2010, 68-72
- 32) 本多彰, 池上正, 松崎靖司
肝細胞癌以外の肝腫瘍 肝嚢胞腺腫
日本臨床・特殊号: 別冊 肝・胆道系症候群 2 肝臓編(下), 日本臨床社, 大阪, 2010, 164-166
- 33) 松崎靖司
放射線治療
医学書院・肝癌の治療マニュアル(第2版), 医学書院, 東京, 2010, 105-109
- 34) 池上正, 松崎靖司
バンチ症候群
症候群ハンドブック 中山書店, 東京, 2011, 272
- 35) 熊田卓, 豊田秀徳
7 肝癌の治療効果の判定の仕方 D 腫瘍マーカーによる効果判定
肝癌診療マニュアル 第2班, 医学書院, 東京, 2010, 136-138
- 36) 熊田卓
B・C型肝炎 19 ALT正常のC型キャリアと考えられたが, 肝生検で線維化が進展していた症例
症例から学ぶウイルス肝炎の治療戦略, 診断と治療社, 東京, 2010, 124-127
- 37) 熊田卓, 豊田秀徳, 多田俊史
3 肝癌診断・治療 (1) 高感度AFP-L3分画の肝細胞癌診療に与えるインパクト
肝疾患Review2010-2011, 日本メディカルセンター, 東京, 2010, 189-193
- 38) 高木万紀子, 熊田卓
1. 肝癌の画像所見と鑑別診断 1) 肝細胞癌
見逃し, 誤りを防ぐ 肝・胆・膵癌画像アトラス, 羊土社, 東京, 2010, 76-8
- <雑誌>
- 1) Kumada T, Toyoda H, Kiriyama S, Tanikawa M, Hisanaga Y, Kanamori A, Tada T, Tanaka J
Characteristics of elderly hepatitis C virus-associated hepatocellular carcinoma patients
Journal of Gastroenterology and Hepatology, 28(2), 357-364, 2013
- 2) Kumada T, Toyoda H, Tada T, Kiriyama S, Tanikawa M, Hisanaga Y, Kanamori A, Niinomi T, Yasuda S, Ando Y, Yamamoto K, Tanaka J
Effect of nucleos(t)ide analogue therapy on hepatocarcinogenesis in chronic hepatitis B patients: a propensity score analysis
Journal of Hepatology, 58(3), 427-433, 2013
- 3) 田中純子
C型肝炎はどのように日本で蔓延し肝癌をもたらしたのか -肝癌抑制の実地診療のすすめかた-
Medical Practice, 30(2), 194-202, 2013
- 4) 仁科惣治, 栗原淳子, 則安俊昭, 糸島達也, 山本和秀, 田中純子, 日野啓輔
岡山県における肝炎ウイルス検診陽性者の医療機関受診等に関する追跡調査
肝臓, 54(1), 84-86, 2013
- 5) Murakami Y, Toyoda H, Tanahashi T, Tanaka J, Kumada T, Yoshioka Y, Kosaka N, Ochiya T, Taguchi Y-h
Comprehensive miRNA expression analysis in peripheral blood can diagnose liver disease
PLOS ONE, 7(10), e48366, 2012
- 6) Matsuo J, Mizui M, Okita H, Katayama K, Aimitsu S, Sakata T, Obayashi M, Nakanishi T, Chayama K, Miyakawa Y, Yoshizawa H, Tanaka J.
(Hiroshima Hepatitis Study Group)
Follow up of the 987 blood donors found with hepatitis C virus infection over 9-18 years.
Hepatology Research, 42(7), 637-647, 2012
- 7) 田中純子, 小山富子, 相崎英樹,
C型肝炎ウイルス(HCV)による感染,
臨床とウイルス, 40(1), 28-35, 2012
- 8) 田中純子,
肝癌の疫学と対策,
内科 特集 肝癌診療の最前線-知っておきたい診断・治療の新情報-, 386-392, 2012
- 9) 片山恵子, 松尾順子, 秋田智之, 田淵文子, 酒井明人, 田中純子
肝炎ウイルス検査の受診状況等に関する聞き取り調査報告
肝臓, 53(11), 707-720, 2012
- 10) 杉山裕美, 小笹晃太郎, 田中純子, 梯正之, 恒松美輪子, 武田直也, 有田健一, 鎌田七男
広島県の小児がん患者の居住地と診断・治療医療機関との関係, 2004年~2008年
広島医学, 65(11), 685-695, 2012

- 11) 藤井紀子、原川貴之、秋田智之、田中純子
リスクを有する「肥満ではないグループ」を保健指導の対象とする新階層化の試み
日本予防医学会雑誌,7(3),119-123,2012
- 12) 田中純子
B型肝炎に関する疫学調査の最新情報
医学のあゆみ,242(5),373-380,2012
- 13) 田中純子
わが国におけるC型肝炎の疫学
臨床消化器内科,27(11),1413-1422,2012
- 14) 田中純子、三浦直彦
わが国における肝臓の疫学
肝胆臓,65(6),985-992,2012
- 15) 田中純子
わが国におけるB型肝炎・C型肝炎ウイルスキャリアの現状
化学療法の領域,28(1),18-27,2012
- 16) 秋田智之、曾我部愛由子、池本珠莉、大竹ひかり、柴田真美、久保川佳子、榎響子、村上茂、田中純子
30歳代における乳がん検診導入、及びその方法に関する医療経済的考察—増分費用効果・費用便益の観点から—
日本予防医学会雑誌,7(1),31-37,2012
- 17) Tanaka J, Koyama T, Mizui M, Uchida S, Katayama K, Matsuo J, Akita T, Nakashima A, Miyakawa Y, Yoshizawa H,
Total Numbers of Undiagnosed Carriers of Hepatitis C and B Viruses in Japan Estimated by Age-and Area-specific Prevalence on the National Scale,
Intervirology,54(4),185-195, 2011
- 18) Tomoguri T, Katayama K, Tanaka J, Yugi H, Mizui M, Miyakawa Y, Yoshizawa H
Interferon Alone or Combined with Ribavirin for Acute Prolonged Infection with Hepatitis C Virus in Chimpanzees
Intervirology, 54(4), 229-232, 2011
- 19) Kumada T, Toyoda H, Kiriya S, Tanikawa M, Hisanaga Y, Kanamoti A, Tada T, Tanaka J, Yoshizawa H,
Predictive value of tumor markers for hepatocarcinogenesis in patients with hepatitis C virus,
J Gastroenterol,46,536-544, 2011
- 20) Kumada T, Toyoda H, Kiriya S, Tanikawa M, Hisanaga Y, Kanamoti A, Tada T, Tanaka J, Yoshizawa H
Predictive value of tumor markers for hepatocarcinogenesis in patients with hepatitis C virus
J Gastroenterol, 46(4), 536-544, 2011
- 21) 松尾順子、田中純子,
C型肝炎ウイルスキャリアの慢性肝炎発症率,
日本医事新報, 50-51, 2011
- 22) 田中純子、片山恵子,
B型肝炎 C型肝炎の疫学,
Medical Practice, 28(8), 1347-1353, 2011
- 23) Kawaoka T, Aikata H, Takaki S, Hashimoto Y, Katamura Y, Hiramatsu A, Waki K, Takahashi S, Kamada K, Kitamoto M, Nakanishi T, Ishikawa M, Hieda M, Kakizawa H, Tanaka J, Chayama K
Transcatheter chemoembolization for unresectable hepatocellular carcinoma and comparison of five staging systems
Hepatology Research, 40, 1082-1091, 2010
- 24) 田中純子、松尾順子
ウイルス肝炎の疫学
最新医学, 65(9), 13-20, 2010
- 25) 田中純子、片山恵子
B型およびC型肝炎ウイルス感染
治療学, 44(9), 14-17, 2010
- 26) 栗屋智一、川上由育、亀田美保、沈永新、金光昭子、吉次美幸、梶原繁信、池田博明、田中純子、木平健治、茶山一彰
「臨床研究に関する倫理指針」改正への対応
広島医学, 63(11), 727-732,2010
- 27) 井廻道夫、田中純子、熊田博光、小池和彦
肝炎ウイルス感染の現状と新しい治療法
治療学, 44(9), 73-80, 2010
- 28) Taira R, Satake M, Momose S, Hino S, Suzuki Y, Murokawa H, Uchida S, Tadokoro K.
Residual risk of transfusion-transmitted hepatitis B virus (HBV) infection caused by blood components derived from donors with occult HBV infection in Japan.
Transfusion, in press.
- 29) Matsumoto C, Igarashi M, Furuta RA, Uchida S, Satake M, Tadokoro K.
Xenotropic Murine Leukemia Virus-Related Virus Proviral DNA Not Detected in Blood Samples Donated in Japan.
Japanese Journal of infective Diseases,65,334-336, 2012.
- 30) 日野郁生、高橋雅彦、高梨美乃子、内田茂治、中島一格
HCV-RNAの検出からHCV抗体が検出されるまでに52週を要した1症例。
日本血液事業学会誌,34: 595-598, 2012.
- 31) 内田茂治
輸血後感染症副作用およびその検査。
検査と技術 40(9) : 818-821,2012.
- 32) 内田茂治
献血者におけるHBV感染状況。
医学のあゆみ 242(5) : 494-498, 2012.
- 33) Bouike Y, Imoto S, Mabuchi O, Kokubunji A, Kai S, Okada M, R. Taniguchi R, Momose S, Uchida S, Nishio H
Infectivity of HBV DNA positive donations identified in look-back studies in Hyogo-Prefecture, Japan
Transfusion Medicine, 21, 107-115, 2011
- 34) Sobata R, Matsumoto C, Igarashi M, Uchida S, Momose S, Hino S, Satake M, Tadokoro K,
No viremia of pandemic (H1N1) 2009 was demonstrated in blood donors who had donated blood during the probable incubation period.,
Transfusion,51,1949-1956, 2011
- 35) Furui S, Hoshi Y, Murata K, Ito K, Suzuki K, Uchida S, Satake M, Mizokami M, Tadokoro K,
Prevalence of amino acid mutation in hepatitis C virus core region among Japanese volunteer

- blood donors.
Journal of Medical Virology, 83, 1924-1929, 2011
- 36) 高橋雅彦, 内田茂治,
輸血、血液製剤によるHCV感染の現状とその予防対策,
日本臨床,69(4),114-121, 2011
- 37) 井上 淳、上野義之、福島耕治、近藤泰輝、嘉数英二、小原範之、木村 修、涌井祐太、下瀬川徹、内田茂治
輸血の6ヵ月後に発症したB型急性肝炎の1例
日本内科学会雑誌, 99, 1910-1912, 2010
- 38) Keisuke Hino
No association for Chinese HBV-related hepatocellular carcinoma susceptibility SNP in other East Asian populations
BMC Medical Genetics,13,2012
- 39) Matsui M, Motoki Y, Inomoto T, Miura D, Kato Y, Suenaga H, Hino K, Nojima J,
Temperature-related effects of adenosine triphosphatase-activated microglia on pro-inflammatory factors.,
Neurocrit Care, 17(2),293-300,2012
- 40) 仁科惣治、日野啓輔
肝発癌と鉄代謝異常
日本消化器病学会雑誌,109 (4) ,571-584,2012
- 41) Korenaga M, Hidaka I, Hino K
A glycyrrhizin-containing preparation reduces hepatic steatosis induced by hepatitis C virus protein and iron in mice
Liver Int, 31(4),552-560, 2011
- 42) Doi N, Tomiyama Y, Hino K
Focal nodular hyperplasia-like nodule with reduced expression of organic anion transporter 1B3 in alcoholic liver cirrhosis
Intern Med, 50(11), 1193-1199, 2011
- 43) Ito K, Higami K, Masaki N, Sugiyama M, Mukaide M, Saito H, Aoki Y, Sato Y, Imamura M, Murata K, Nomura H, Hige S, Adachi H, Hino K, Yatsushashi H, Orito E, Kani S, Tanaka Y, Mizokami M.
The rs8099917 polymorphism, when determined by a suitable genotyping method, is a better predictor for response to pegylated alpha interferon/ribavirin therapy in Japanese patients than other single nucleotide polymorphisms associated with interleukin-28B
J Clin Microbiol, 49(5), 1853-1860, 2011
- 44) Tomiyama Y, Yoshioka N, Yanai Y, Kawase T, Nishina S, Hara Y, Yoshida K, Korenaga K, Korenaga M, Hino K.
Type I interferon receptor in peripheral blood mononuclear cells may predict response to intra-arterial 5-fluorouracil + interferon therapy for advanced hepatocellular carcinoma,
Hepatic Medicine : Evidence and Research, 3, 45-52, 2011
- 45) Korenaga M, Hidaka I, Nishina S, Sakai A, Shinozaki A, Gondo T, Furutani T, Kawano H, Sakaida I, Hino K,
A glycyrrhizin-containing preparation reduces hepatic steatosis induced by hepatitis C virus protein and iron in mice.
Liver Int,31,552-560, 2011
- 46) Doi N, Tomiyama Y, Kawase T, Nishina S, Yoshioka N, Hara Y, Yoshida K, Korenaga K, Korenaga M, Moriya T, Urakami A, Nakashima O, Kojiro M, Hino K,
Focal nodular hyperplasia-like nodule with reduced expression of organic anion transporter 1B3 in alcoholic liver cirrhosis.,
Intern Med, 50,1193-1199, 2011
- 47) Matsuura K, Tanaka Y, Kusakabe A, Hige S, Inoue J, Komatsu M, Kuramitsu, T, Hirano K, Ohno T, Hasegawa, I, Kobashi H, Hino K, Hiasa Y, Nomura H, Sugauchi F, Nojiri S, Joh T, Mizokami M,
Recommendation of lamivudine-to-entecavir switching treatment in chronic hepatitis B responders: Randomized controlled trial.,
Hepatol Res,41,505-511, 2011
- 48) Tanaka Y, Kurosaki, M, Nishida N, Sugiyama M, Matsuura K, Sakamoto N, Enomoto N, Yatsushashi H, Nishiguchi S, Hino K, Hige S, Itoh Y, Tanaka E, Mochida S, Honda M, Hiasa Y, Koike A, Sugauchi F, Kaneko S, Izumi N, Tokunaga K, Mizokami M,
Genome-wide association study identified ITPA/DDRGI1 variants reflecting thrombocytopenia in pegylated interferon and ribavirin therapy for chronic hepatitis C.,
Hum Mol Genet,20,3507-3516, 2011
- 49) 仁科惣治、是永匡紹、日野啓輔,
H C V感染にかかわる病態 H C V感染と酸化ストレス,
日本臨床,Vol.69 (増刊号4) ,149-155, 2011
- 50) 富山恭行、是永匡紹、日野啓輔,
非B非C肝細胞癌,特に成因不明肝細胞癌の臨床的特徴についての検討,
第46回 日本肝臓研究会記録集, 124-125, 2011
- 51) 仁科惣治、是永匡紹、日野啓輔,
肝炎ウイルスによる発癌のメカニズム,
Medical Practice, 28,1402-1407, 2011
- 52) Namiki I, Nishiguchi S, Hino K
Management of hepatitis C; Report of the Consensus Meeting at the 45th Annual Meeting of the Japan Society of Hepatology (2009)
Hepatol Res, 40, 347-68, 2010
- 53) Nishina S, Korenaga M, Hino K
Hepatitis C virus protein and iron overload induce hepatic steatosis through the unfolded protein response in mice
Liver Int, 30, 683-92, 2010
- 54) Yanagihara M, Tsuneoka H, Hino K
Molecular typing of Bartonella henselae DNA extracted from human clinical specimens and cat isolates in Japan
FEMS Immunol Med Microbiol, 60, 44-48, 2010
- 55) 仁科惣治、是永匡紹、日野啓輔,
Glycyrrhizinはミトコンドリア保護作用を介して

- HCV蛋白と鉄負荷による肝脂肪化を抑制する,
G.I.Research, 19,400-401, 2011
- 56) 日野啓輔 他
慢性肝障害における鉄代謝異常と除鉄療法
日本内科学会雑誌, 99, 1248-1254, 2010
- 57) 日野啓輔 他
C型慢性肝炎・非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)
における鉄代謝と酸化ストレス
日本医師会雑誌, 139, 301-305, 2010
- 58) 是永匡紹、坂井田功、日野啓輔
PegIFN/RBV療法無効例への工夫-再燃・null例への
再治療の試み-
消化器内科, 50, 595-600, 2010
- 59) 富山恭行、日野啓輔
肝疾患の地域連携医療-肝疾患診療連携拠点病院、
公費助成制度、治療計画の運用- B型肝炎とC型肝炎
治療薬
肝胆膵, 61, 853-60, 2010
- 60) 日野啓輔
高齢者における肝庇護療法についての再考
CLINICIAN, 57, 20-25, 2010
- 61) 日野啓輔
肝発癌における鉄代謝異常と脂質代謝異常のクロス
トーク
平成20年度両備園記念財団研究助成金による研究
報告, 25, 114-121, 2009
- 62) 宮坂昭生、坂本十一、福田眞作、後藤隆、大西洋、
上野義之、下瀬川徹、斉藤貴史、河田純男、大平弘
正、小松眞史、阿部弘一、鈴木一幸、
Serotype 1 高ウイルス量C型慢性肝炎に対するペ
グインターフェロン α -2b リバビリン併用療法の
有用性: 東北地区における多施設共同研究成績、
肝臓, 52巻10号, 652-661, 2011
- 63) 酒井明人
石川県の肝癌撲滅計画
The G.I.Forefront, 7 (2), 119-121, 2012
- 64) 片山恵子、松尾順子、秋田智之、田淵文子、酒井明
人、田中純子
肝炎ウイルス検査の受診状況等に関する聞き取り調
査報告
肝臓, 53, 707-720, 2012
- 65) Honda M, Takehana K, Sakai A, Tagata Y,
Shirasaki T, Nishitani S, Muramatsu T,
Yamashita T, Nakamoto Y, Mizukoshi E, Sakai Y,
Yamashita T, Nakamura M, Shimakami T, Yi M,
Lemon SM, Suzuki T, Wakita T, Kaneko S;
Hokuriku Liver Study Group,
Malnutrition impairs interferon signaling through
mTOR and FoxO pathways in patients with
chronic hepatitis C,
Gastroenterology, 141, 128-140, 2011
- 66) 酒井明人、荒井邦明、金子周一、
肝臓癌の予防とサーベイランス、
G.I.Research, 19, 334-341, 2011
- 67) Honda M, Sakai A, Yamashita T, Nakamoto Y,
Mizukoshi E, Sakai Y, Yamashita T, Nakamura M,
Shirasaki T, Horimoto K, Tanaka Y, Tokunaga K,
Mizokami M Kaneko S; Hokuriku Liver Study
Group
Hepatic ISG expression is associated with genetic
variation in interleukin 28B and the outcome of
IFN therapy for chronic hepatitis C
Gastroenterology, 139, 499-509, 2010
- 68) 酒井明人、金子周一
肝疾患の地域医療連携 各地域の取り組み 石川県
の取り組み
肝胆膵, 61, 753-761, 2010
- 69) 酒井明人、金子周一
インターフェロン+DFPP併用療法
消化器の臨床, 13, 310-314, 2010
- 70) 酒井明人、金子周一
C型肝炎におけるVRADの有用性
医学のあゆみ, 234, 1197-1201, 2010
- 71) 酒井明人、金子周一
よく見かける感染症 診断・治療の最新事情 ウイ
ルス肝炎の現状撲滅への取り組み
内科, 106, 825-829, 2010
- 72) Akuta N, Suzuki F, Hirakawa M, Kawamura Y,
Sezaki H, Suzuki Y, Hosaka T, Kobayashi M,
Kobayashi M, Saitoh S, Arase Y, Ikeda K,
Chayama K, Nakamura Y, Kumada H.
Amino acid substitution in HCV core/NS5A
region and genetic variation near IL28B gene
affect treatment efficacy to interferon plus
ribavirin combination therapy
Intervirology, 55(3), 231-241, 2012
- 73) Akuta N, Suzuki F, Seko Y, Kawamura Y, Sezaki H,
Suzuki Y, Hosaka T, Kobayashi M, Hara T,
Kobayashi M, Saitoh S, Arase Y, Ikeda K,
Kumada H.
Complicated Relationships of Amino Acid
Substitution in Hepatitis C Virus Core Region and
IL28B Genotype Influencing
Hepatocarcinogenesis
Hepatology, 56, 2134-2141, 2012
- 74) Suzuki F, Arase Y, Suzuki Y, Akuta N, Sezaki H,
Seko Y, Kawamura Y, Hosaka T, Kobayabashi M,
Saitoh S, Ikeda K, Kobayashi M, Kumada H.
Long-term efficacy of interferon therapy in
patients with chronic hepatitis B virus infection
in Japan
J Gastroenterol, 47, 814-822, 2012
- 75) Suzuki F, Sezaki H, Akuta N, Suzuki Y, Seko Y,
Kawamura Y, Hosaka T, Kobayashi M, Saitoh S,
Arase Y, Ikeda K, Kobayashi M, Mineta R,
Watahiki S, Miyakawa Y, Kumada H.
Prevalence of hepatitis C virus variants resistant
to NS3 protease inhibitors or the NS5A inhibitor
(BMS-790052) in hepatitis patients with genotype
1b
J Clin Virol, 54, 352-354, 2012
- 76) Arase Y, Kawamura Y, Suzuki Y, Akuta N,
Matsumoto N, Seko Y, Sezaki H, Kobayashi M,
Hosaka T, Hirakawa M, Saitoh S, Ikeda K,
Kobayashi M, Kumada H.
Efficacy of reduction therapy of natural human
 β -interferon and ribavirin in elderly patients
with chronic hepatitis C, genotype 1b and high
viral load
Hepatol Res, 42, 949-957, 2012

- 77) Akuta N, Suzuki F, Seko Y, Kawamura Y, Sezaki H, Suzuki Y, Hosaka T, Kobayashi M, Kobayashi M, Saitoh S, Arase Y, Ikeda K, Kumada H. Association of IL28B Genotype and Viral Response of Hepatitis C Virus Genotype 2 to Interferon Plus Ribavirin Combination Therapy *J Med Virol*,84,1593-1599,2012
- 78) Takeyasu M, Akuta N, Suzuki F, Seko Y, Kawamura Y, Sezaki H, Suzuki Y, Hosaka T, Kobayashi M, Kobayashi M, Arase Y, Ikeda K, Kumada H. Long-term interferon monotherapy reduces the risk of HCV-associated hepatocellular carcinoma *J Med Virol*,84,1199-1207,2012
- 79) Akuta N, Suzuki F, Seko Y, Kawamura Y, Sezaki H, Suzuki Y, Hosaka T, Kobayashi M, Saitoh S, Arase Y, Ikeda K, Kumada H. Determinants of response to triple therapy of telaprevir, peginterferon, and ribavirin in previous non-responders infected with HCV genotype 1 *J Med Virol*,84,1097-1105,2012
- 80) Arase Y, Kobayashi M, Suzuki F, Suzuki Y, Kawamura Y, Akuta N, Imai N, Kobayashi M, Sezaki H, Matsumoto N, Saitoh S, Hosaka T, Ikeda K, Kumada H, Ohmoto Y, Amakawa K, Hsieh SD, Ogawa K, Tanabe M, Tsuji H, Kobayashi T. Difference in malignancies of chronic liver disease due to non-alcoholic fatty liver disease or hepatitis C in Japanese elderly patients *Hepato Res*,42,264-272,2012
- 81) Karino Y, Toyota J, Ikeda K, Suzuki F, Chayama K, Kawakami Y, Ishikawa H, Watanabe H, Dennis Hernandez, Fei Yu, Fiona McPhee, Kumada H. Characterization of virologic escape in hepatitis C virus genotype 1b patients treated with the direct-acting antivirals daclatasvir and asunaprevir *J Hepatol*,2012.11.012, In press,2012
- 82) Suzuki Y, Ikeda K, Suzuki F, Toyota J, Karino Y, Chayama K, Kawakami Y, Ishikawa H, Watanabe H, Wenhua Hu, Timothy Eley, Fiona McPhee, Eric Hughes, Kumada H. Dual Oral Therapy with Daclatasvir and Asunaprevir for Patients with HCV Genotype 1b Infection and Limited Treatment Options *J Hepatol*,2012.09.037, In press,2012
- 83) Suzuki F, Suzuki Y, Sezaki H, Akuta N, Seko Y, Kawamura Y, Hosaka T, Kobayashi M, Saitoh S, Arase Y, Ikeda K, Mineta R, Watahiki S, Kobayashi M, Nakayasu Y, Tsuda H, Aoki K, Yamada I, Kumada H. Exploratory study on telaprevir given every 8 h at 500 mg or 750 mg with peginterferon-alpha-2b and ribavirin in hepatitis C patients *Hepato Res*, In press,2012
- 84) 池田健次 HCV-RNA消失後 (SVR後) の肝細胞癌の発生 *Liver Cancer*1,8(1), 9-12,2012
- 85) Ikeda K, Kobayashi M, Kawamura Y, Imai N, Seko Y, Hirakawa M, Hosaka T, Sezaki H, Akuta N, Saitoh S, Suzuki F, Suzuki Y, Arase Y, Kumada H. Stage progression of small hepatocellular carcinoma after radical therapy: Comparisons of radiofrequency ablation and surgery using Markov model *Liv Int*, 31(5), 692-699, 2011
- 86) Arase Y, Suzuki Y, Suzuki F, Matsumoto N, Akuta N, Imai N, Seko Y, Sezaki H, Kawamura Y, Kobayashi M, Hosaka T, Saito S, Ikeda K, Kobayashi M, Kumada H. Efficacy and safety of combination therapy of natural human interferon beta and ribavirin in chronic hepatitis C patients. *Intern Med*,50,2083-2088, 2011
- 87) Kobayashi M, Hosaka T, Ikeda K, Seko Y, Kawamura Y, Sezaki H, Akuta N, Suzuki F, Suzuki Y, Saitoh S, Arase Y, Kumada H. Highly sensitive AFP-L3% assay is useful for predicting recurrence of hepatocellular carcinoma after curative treatment pre- and postoperatively. *Hepato Res*,41(11),1036-1045, 2011
- 88) Imai N, Ikeda K, Seko Y, Kawamura Y, Sezaki H, Hosaka T, Akuta N, Kobayashi M, Saitoh S, Suzuki F, Suzuki Y, Arase Y, Kumada H. Previous chemoembolization response after transcatheter arterial chemoembolization (TACE) can predict the anti-tumor effect of subsequent TACE with miriplatin in patients with recurrent hepatocellular carcinoma. *Oncology* ,80(3-4),188-194, 2011
- 89) Akuta N, Suzuki F, Hirakawa M, Kawamura Y, Sezaki H, Suzuki Y, Hosaka T, Kobayashi M, Kobayashi M, Saitoh S, Arase Y, Ikeda K, Kumada H. Amino acid substitutions in hepatitis C virus core region predict hepatocarcinogenesis following eradication of HCV RNA by antiviral therapy. *J Med Virol*,83(6),1016-1022, 2011
- 90) Kawamura Y, Ikeda K, Seko Y, Hosaka T, Kobayashi M, Saitoh S, Kumada H. Heterogeneous type 4 enhancement of hepatocellular carcinoma on dynamic CT is associated with tumor recurrence after radiofrequency ablation. *AJR*,197,665-673, 2011
- 91) Hosaka T, Suzuki F, Kobayashi M, Hirakawa M, Kawamura Y, Yatsuji H, Sezaki H, Akuta N, Suzuki Y, Saitoh S, Arase Y, Ikeda K, Miyakawa Y, Kumada H. Development of HCC in patients receiving adefovir dipivoxil for lamivudine-resistant hepatitis B virus mutants *Hepato Res*, 40(2), 145-152, 2010

- 92) Suzuki F, Akuta N, Suzuki Y, Yatsuji H, Sezaki H, Arase Y, Hirakawa M, Kawamura Y, Hosaka T, Kobayashi M, Saitoh S, Ikeda K, Kobayashi M, Watahiki S, Kumada H
Efficacy of switching to entecavir monotherapy in Japanese lamivudine- pretreated patients
J Gastroenterol Hepatol, 25, 892-898, 2010
- 93) Hosaka T, Suzuki F, Kobayashi M, Hirakawa M, Kawamura Y, Yatsuji H, Sezaki H, Akuta N, Suzuki Y, Saitoh S, Arase Y, Ikeda K, Kobayashi M, Kumada H
HBcrAg is predictor of post-treatment recurrence of hepatocellular carcinoma during antiviral therapy
Liv Int, 93(3-4), 109-112, 2010
- 94) Kawamura Y, Ikeda K, Hirakawa M, Yatsuji H, Sezaki H, Hosaka T, Akuta N, Kobayashi M, Saitoh S, Suzuki F, Suzuki Y, Arase Y, Kumada H
New classification of dynamic computed tomography images predictive of malignant characteristics of hepatocellular carcinoma
Hepatol Res, 40(10), 1006-1014, 2010
- 95) Ikeda K, Kobayashi M, Seko Y, Imai N, Hirakawa M, Kawamura Y, Sezaki H, Hosaka T, Akuta N, Saitoh S, Suzuki F, Suzuki Y, Arase Y, Kumada H
Administration of interferon for two or more years decreases early stage hepatocellular carcinoma recurrence rate after radical ablation: A retrospective study of hepatitis C virus-related liver cancer
Hepatol Res, 40(12), 1168-1175, 2010
- 96) Kawamura Y, Arase Y, Ikeda K, Hirakawa M, Hosaka T, Kobayashi M, Saitoh S, Yatsuji H, Sezaki H, Norio A, Suzuki F, Suzuki Y, Kumada H
Diabetes enhances hepatocarcinogenesis in noncirrhotic, interferon-treated hepatitis C patients
Am J Med, 123(10), 951-956, 2010
- 97) 池田健次
肝細胞がんの発癌予防の現状と展望
腫瘍内科, 6(5), 419-424, 2010
- 98) 池田健次
B型慢性肝炎・肝硬変に発生する肝癌
臨床消化器内科, 25(4), 405-412, 2010
- 99) 池田健次
ウイルス性肝硬変に対する抗ウイルス療法
日消誌, 107, 8-13, 2010
- 100) 池田健次
C型肝炎・肝癌治療後の患者に対するインターフェロン治療
消化器の臨床, 13(3), 293-298, 2010
- 101) Torimura T, Ueno T, Taniguchi E, Masuda H, Iwamoto H, Nakamura T, Inoue K, Hashimoto O, Abe M, Koga H, Barresi V, Nakashima E, Yano H, Sata M.
Interaction of endothelial progenitor cells expressing cytosine deaminase in tumor tissues and 5-fluorocytosine administration suppresses growth of 5-fluorouracil-sensitive liver cancer in mice.
Cancer Sci 2012; 103: 542-548.
- 102) Abe M, Koga H, Yoshida T, Masuda H, Iwamoto H, Sakata M, Hanada S, Nakamura T, Taniguchi E, Kawaguchi T, Yano H, Torimura T, Ueno T, Sata M.
Hepatitis C virus core protein upregulates the expression of vascular endothelial growth factor via the nuclear factor- κ B/hypoxia-inducible factor-1 α axis under hypoxic conditions.
Hepatol Res, 42,591-600. 2012
- 103) Hino-Arinaga T, Ide T, Kuromatsu R, Miyajima I, Ogata K, Kuwahara R, Hisamochi A, Torimura T, Sata M; Autoimmune Hepatitis Study Group.
Risk factors for hepatocellular carcinoma in Japanese patients with autoimmune hepatitis type 1.
J Gastroenterol, 47,569-576,2012
- 104) Niizeki T, Sumie S, Torimura T, Kurogi J, Kuromatsu R, Iwamoto H, Aino H, Nakano M, Kawaguchi A, Kakuma T, Sata M.
Serum vascular endothelial growth factor as a predictor of response and survival in patients with advanced hepatocellular carcinoma undergoing hepatic arterial infusion chemotherapy.
J Gastroenterol; 47686-695. 2012
- 105) Inoue K, Torimura T, Nakamura T, Iwamoto H, Masuda H, Abe M, Hashimoto O, Koga H, Ueno T, Yano H, Sata M.
Vandetanib, an inhibitor of VEGF receptor-2 and EGF receptor, suppresses tumor development and improves prognosis of liver cancer in mice.
Clin Cancer Res, 18,3924-3933. 2012
- 106) 佐田通夫 (司会)、波多野悦朗、金井文彦、鳥村拓司.
進行肝細胞癌の治療- 現状と今後の展望 - .
The Liver Cancer Journal,4,171-182. 2012
- 107) 鳥村拓司.
肝細胞癌に対する血管新生抑制療法の試み.
久留米医学会雑誌,75,199-206. 2012
- 108) Nakano M, Tanaka M, Kuromatsu R, Nagamatsu H, Sakata K, Matsugaki S, Kajiwara M, Fukuizumi K, Tajiri N, Matsukuma N, Sakai T, Ono N, Yano Y, Koga H, Kurogi J, Takata A, Sumie S, Satani M, Yamada S, Niizeki T, Aino H, Iwamoto H, Torimura T, Sata M.
Efficacy, safety, and survival factors for Sorafenib treatment in Japanese patients with advanced hepatocellular carcinoma.
Oncology,84,108-114,2012
- 109) Sumie S, Kawaguchi T, Kuromatsu R, Takata A, Nakano M, Satani M, Yamada S, Niizeki T, Torimura T, Sata M,
Total and high molecular weight adiponectin and hepatocellular carcinoma with HCV infection,
PLoS One,6,e26840(Page 8), 2011

- 110) Kim do Y, Kim JW, Kuromatsu R, Ahn SH, Torimura T, Sherman M, Controversies in surveillance and early diagnosis of hepatocellular carcinoma, *Oncology*,81(Suppl.1),56-60, 2011
- 111) Iwamoto H, Torimura T, Nakamura T, Sata M, et al, Metronomic S-1 chemotherapy and vandetanib; an efficacious and nontoxic treatment for hepatocellular carcinoma, *Neoplasia*,13,187-197, 2011
- 112) Torimura T, Ueno T, Nakamura T, Sata M, et al, Interaction of endothelial progenitor cells expressing cytosine deaminase in tumor tissues and 5-fluorocytosine administration suppresses growth of 5-fluorouracil sensitive liver cancer in mice, *Cancer Sci* 2012;103(3):542-548.
- 113) 永松洋明、岩本英希、中野聖士、鳥村拓司、佐田通夫, ソラフェニブ投与中急速に悪化したstage-IV-B肝細胞癌症例に対する動注化学療法 *The Liver Cancer Journal*, 3, 152-153, 2011
- 114) Takata A, Kuromatsu R, Ando E, Iwamoto H, Fukushima N, Sumie S, Torimura T, Sata M HCC develops even in the early stage of chronic liver disease in elderly patients with HCV infection *Int J Mol Med*, 26, 249-256, 2010
- 115) Fukushima N, Kuromatsu R, Arinaga-Hino T, Ando E, Takata A, Sumie S, Nakano M, Kawaguchi T, Ide T, Torimura T, Sata M Adipocytokine involvement in hepatocellular carcinoma after sustained response to interferon for chronic hepatitis C *Hepatol Res*, 40, 911-922, 2010
- 116) Nakano M, Ando E, Kuromatsu R, Torimura T, Sumie S, Takata A, Fukushima N, Kurogi J, Niizeki T, Iwamoto H, Tanaka M, Sata M Recent progress in the management of hepatocellular carcinoma detected during a surveillance program in Japan *Hepatol Res*, 40(10), 989-996, 2010
- 117) Nagamatsu H, Hiraki M, Mizukami N, Yoshida H, Iwamoto H, Sumie S, Torimura T, Sata M Intra-arterial therapy with cisplatin suspension in lipiodol and 5-fluorouracil for hepatocellular carcinoma with portal vein tumour thrombosis *Aliment Pharmacol Ther*, 32(4), 543-550, 2010
- 118) Ando T, Imamura H, Suzuki R, Aizaki H, Watanabe T, Wakita T, Suzuki T, Visualization and Measurement of ATP Levels in Living Cells Replicating Hepatitis C Virus Genome RNA, *PLOS Pathogen*, 8(3),e1002561,2012
- 119) Liu HM, Aizaki H, Machida K, Ou JH, Lai MM. Hepatitis C virus translation preferentially depends on active RNA replication. *PLoS One.*,7,e43600,2012
- 120) Suzuki R, Saito K, Kato T, Shirakura M, Akazawa D, Ishii K, Aizaki H, Kanegae Y, Matsuura Y, Saito I, Wakita T, Suzuki T. Trans-complemented hepatitis C virus particles as a versatile tool for study of virus assembly and infection. *Virology*,10,29-38. 2012
- 121) Murayama A, Sugiyama N, Watashi K, Masaki T, Suzuki R, Aizaki H, Mizuochi T, Wakita T, Kato T. Japanese reference panel of blood specimens for evaluation of hepatitis C virus RNA and core antigen quantitative assays. *J Clin Microbiol*, 50,1943-9. 2012
- 122) Inoue Y, Aizaki H, Hara H, Matsuda M, Ando T, Shimoji T, Murakami K, Masaki T, Shoji I, Homma S, Matsuura Y, Miyamura T, Wakita T, Suzuki T Chaperonin TRiC/CCT participates in replication of hepatitis C virus genome via interaction with the viral NS5B protein *Virology*,410, 38-47, 2011
- 123) Yamamoto M, Aizaki H, Fukasawa M, Teraoka T, Miyamura T, Wakita T, Suzuki T, The structural requirements of virion-associated cholesterol for infectivity, buoyant density and apolipoprotein association of hepatitis C virus. *J Gen.Virol.*,92,2082--2087, 2011
- 124) Watanabe N, Aizaki H, Matsuura T, Kojima S, Wakita T, Suzuki T, Hepatitis C virus RNA replication in human stellate cells regulates gene expression of extracellular matrix-related molecules. *Biochem Biophys Res Commun.*,407,135-140, 2011
- 125) Masaki T, Suzuki R, Saeed M, Mori KI, Matsuda M, Aizaki H, Ishii K, Maki N, Miyamura T, Matsuura Y, Wakita T, Suzuki T Production of infectious hepatitis C virus by using RNA polymerase I-mediated transcription *J Virol*, 84, 5284-5835, 2010
- 126) Hmwe S S, Aizaki H, Date T, Murakami K, Ishii K, Miyamura T, Koike K, Wakita T, Suzuki T Identification of hepatitis C virus genotype 2a replicon variants with reduced susceptibility to ribavirin *Antiviral Res*, 85, 520-524, 2010
- 127) Narahara Y, Kanazawa H, Sakamoto C, Maruyama H, Yokosuka O, Mochida S, Uemura M, Fukui H, Sumino Y, Matsuzaki Y, Masaki N, Kokubu S, Okita K, The efficacy and safety of terlipressin and albumin in patients with type I hepatorenal syndrome: a multicenter, open-label, explorative study *Journal of Gastroenterology*, 47(3), 313-320, 2012
- 128) Ikegami T,Hyogo H,Honda A,Miyazaki T, Tokushige K, Hashimoto E,Inui K, Matsuzaki Y, Tazuma S

- Increased serum liver X receptor ligand oxysterols in patients with non-alcoholic fatty liver disease
Journal of Gastroenterology, 47,1257-1266
2012
- 129) Honda A, Ikegami T, Nakamuta M, Miyazaki T, Iwamoto J, Hirayama T, Saito Y, Takikawa H, Imawari M, Matsuzaki Y
Anticholestatic effects of bezafibrate in patients with primary biliary cirrhosis treated with ursodeoxycholic acid
Hepatology, (e-pub of ahead)
- 130) Miyazaki T, Matsuzaki Y,
Taurine and liver diseases: a focus on the heterogeneous protective properties of taurine
Amino Acids, (e-pub of ahead)
- 131) Iwamoto J, Saito Y, Honda A, Miyazaki T, Ikegami T, Matsuzaki Y.
Bile acid malabsorption deactivates pregnane X receptor in patients with Crohn's disease.
Inflammatory Bowel Diseases, 19(6), 1278-1284, 2013
- 132) 松崎 靖司
【消化器疾患診療のすべて】消化器疾患の診断と治療 肝 薬物性肝障害
日本医師会雑誌, 141(S2), S264-S267, 2012
- 133) 松崎 靖司
【いま、内科薬はこう使う】消化器薬 グリチルリン製剤
mediciana, 49(11), 201-203, 2012
- 134) 池上 正, 松崎 靖司
【C型肝炎のこれからの診かた】肝炎Q&A IFS 治療不応・高齢者C型慢性肝炎難治例の肝庇護療法
日本医事新法, 4614, 78-79, 2012
- 135) 岩本 淳一, 齊藤 吉史, 村上 昌, 伊藤 真典, 門馬 匡邦, 小西 直樹, 屋良 昭一郎, 平山 剛, 本多 彰, 池上 正, 松崎 靖司
ph依存性メサラジン放出調節剤の治療効果についての検討
Progress in medicine, 32(7), 1517-1519, 2012
- 136) 野村 秀幸, 狩野 吉康, 芥田 憲夫, 松崎 靖司
C型慢性肝炎治療 3剤併用療法
たんじゅうさん, 11(1), 3-14, 2012
- 137) 岩本 淳一, 齊藤 吉史, 松崎 靖司
【〔必携〕内視鏡リファレンスブック2012】胃・十二指腸 NSAIDs 関連上部消化管病変
消化器内視鏡, 24(4), 504-508, 2012
- 138) 松崎 靖司
話題のくすり テラプレビル
日本病院薬剤師会雑誌, 48(5), 653-657, 2012
- 139) 松崎 靖司
γ-GTPとLDHのみ高値の理由
日本医事新報, 4595, 54-55, 2012
- 140) Miyazaki T, Honda A, Ikegami T, Saitoh Y, Hirayama T, Matsuzaki Y
Hepatitis C virus infection causes hypolipidemia regardless of hepatic damage or nutritional state: An epidemiological survey of a large Japanese cohort.
Hepatology Research, 41(6), 530-541, 2011
- 141) Ohara T, Oteki T, Suzuki T, Suzuki M, Matsuzaki Y,
Efficacy of double filtration plasmapheresis with pegylated interferon/ribavirin therapy for intractable chronic hepatitis C patients and hepatitis C patients with combined liver cirrhosis by HBV, leading to early viral elimination,
Hepatogastroenterology, 58(105), 133-136, 2011
- 142) Iwamoto J, Mizokami Y, Shimokobe K, Yara S, Murakami M, Kido K, Ito M, Hirayama T, Saito Y, Honda A, Ikegami T, Ohara T, Matsuzaki Y,
The clinical outcome of capsule endoscopy in patients with obscure gastrointestinal bleeding,
Hepatogastroenterology, 58(106), 301-305, 2011
- 143) Miyazaki T, Honda A, Ikegami T, Saitoh Y, Hirayama T, Hara T, Doy M, Matsuzaki Y,
Hepatitis C virus infection causes hypolipidemia regardless of hepatic damage or nutritional state: An epidemiological survey of a large Japanese cohort,
Hepatology Research, 41(6), 530-541, 2011
- 144) Nakayama H, Sugahara S, Fukuda K, Abei M, Shoda J, Sakurai H, Tsuboi K, Matsuzaki Y, Tokuyue K,
Proton beam therapy for hepatocellular carcinoma located adjacent to the alimentary tract,
International Journal of Radiation Oncology Biology Physics, 80(4), 992-995, 2011
- 145) Honda A, Miyazaki T, Ikegami T, Iwamoto J, Maeda T, Teramoto T, Matsuzaki Y,
Cholesterol 25-Hydroxylase activity by CYP3A,
Journal of Lipid Research, 52(8), 1509-1516, 2011
- 146) Iwamoto J, Mizokami Y, Shimokobe K, Ito M, Hirayama T, Saito Y, Honda A, Ikegami T, Matsuzaki Y,
Pretreatment methods in transnasal endoscopy,
Hepatogastroenterology, 58(107-108), 842-845, 2011
- 147) Honda A, Matsuzaki Y,
Cholesterol and chronic hepatitis C virus infection,
Hepatology Research, 41(8), 697-710, 2011
- 148) Hyogo H, Ikegami T, Tokushige K, Hashimoto E, Inui K, Matsuzaki Y, Tokumo H, Hino F, Tazuma S,
Efficacy of pitavastatin for the treatment of non-alcoholic steatohepatitis with dyslipidemia: An open-label, pilot study,
Hepatology Research, 41(11), 1057-1065, 2011
- 149) 松崎靖司、池上正、齋藤吉史,
C型肝炎に対するインターフェロン以外の治療法 肝庇護療法-ウルソデオキシコール酸, 強力ミノファゲンC,
日本臨床, 69(S4), 256-261, 2011
- 150) 池上正、屋良昭一郎、松崎靖司,
腹部 急性胆嚢炎、胆石症(Q&A/特集),
救急・集中治療, 23(5-6), 821-827, 2011

- 151) 岩本淳一、木戸こずえ、伊藤真典、村上昌、屋良昭一郎、平山剛、齋藤吉史、本多彰、池上正、松崎靖司、
低用量アスピリン服用胃・十二指腸潰瘍における抗血小板薬・抗凝固薬併用の影響について、
Progress in Medicine,31(5),1325-1327,2011
- 152) 下河辺宏一、岩本淳一、竹山裕樹、伊藤真典、平山剛、齋藤吉史、池上正、牛尾浩樹、溝上裕士、松崎靖司、
経鼻内視鏡における検査時間の短縮 短時間でできる局麻方法、
消化器内視鏡,23 (6) , 1025-1030, 2011
- 153) 村上昌、池上正、松崎靖司、
当センターにおける高齢者急性膵炎の特徴、
日本高齢消化器病学会誌,13(2),87-92, 2011
- 154) 大原正志、松崎靖司、
大腸癌の予防(トピックス) プロバイオティクス、
臨床消化器内科,26(2),219-225, 2011
- 155) Honda A, Miyazaki T, Ikegami T, Iwamoto J, Yamashita K, Numazawa M, Matsuzaki Y
Highly sensitive and specific analysis of sterol profiles in biological samples by HPLC-ESI-MS/MS
The Journal of Steroid Biochemistry and Molecular Biology, 121(3-5), 556-564, 2010
- 156) 松崎靖司、池上正、齋藤吉史、本多彰
C型肝炎の日常診療：インターフェロン治療が行えない場合の対応
Medicina, 47(3), 446-450, 2010
- 157) 池上正、松崎靖司
IFN無効例に対する治療 -線維化伸展の抑制・発癌の抑制をめざして-
Medical Practice, 27(1), 147-151, 2010
- 158) 池上正、松崎靖司
肝炎のインターフェロン治療の最前線 [C型肝炎] インターフェロン適応外症例に対する治療の実際
消化器の臨床, 13(3), 315-319, 2010
- 159) 松崎靖司、池上正、本多彰
慢性ウイルス肝炎-治療の新たな展開 代替療法：ウルソデオキシコール酸を中心に
カレントセラピー, 28(8), 756-760, 2010
- 160) 松崎靖司、池上正、平山剛、齋藤吉史、伊藤真典、屋良昭一郎
肝癌治療とDPC 現状のDPC問題と今後-DPC環境下における肝癌治療-
消化器内科, 51(3), 307-312, 2010
- 161) 松崎靖司
慢性C型肝炎治療の現状と地域医療連携-肝庇護療法(UDCA療法)を中心に-
高崎医学, 60, 12-15, 2010
- 162) 松崎靖司、池上正
急性肝障害-薬物性肝障害とウイルス肝炎 急性肝障害を起こす疾患 (1) 薬物性肝障害 e. 薬物性肝障害の治療
臨床消化器内科, 25 (11), 2-1-5, 2010
- 163) 松崎靖司、池上正、平山剛、齋藤吉史、本多彰
ウイルス肝炎における肝庇護療法
治療学, 44 (9), 1051-1055, 2010
- 164) 宮崎照雄、本多彰、池上正、伊藤真典、齋藤吉史、松崎靖司
肝炎検診の今後のあり方-茨城県C型肝炎検査の住民基本健診と職域健診の比較より-
肝臓, 51 (9), 528-530, 2010
- 165) 池上正、伊藤真典、松崎靖司
肝細胞癌治療と医療連携パス
肝胆膵, 61(5), 873-845, 2010
- 166) Hirayama T, Mizokami Y, Honda A, Homma Y, Ikegami T, Saito Y, Miyazaki T, Matsuzaki Y
Serum concentration of 27-hydroxycholesterol predicts the effects of high-cholesterol diet on plasma LDL cholesterol level
Hepatol Res, 39, 149-156, 2009
- 167) Honda A, Yamashita K, Hara T, Ikegami T, Miyazaki T, Shirai M, Xu G, Numazawa M, Matsuzaki Y
Highly sensitive quantification of key regulatory oxysterols in biological samples by LC-ESI-MS/MS
J. Lipid Res, 50, 350-357, 2009
- 168) Ikegami T, Matsuki Y, Tanaka Y, Mizokami M, Honda A, Hirayama T, Saito Y, Matsuzaki Y
Impact of determination of hepatitis B virus subgenotype and pre-core/core-promoter mutation for the prediction of acute exacerbation of asymptomatic carriers
Hepatol Res, 39(4), 341-345, 2009
- 169) Honda A, Yamashita K, Ikegami T, Hara T, Miyazaki T, Hirayama T, Numazawa M, Matsuzaki Y
Highly-sensitive quantification of serum malonate, a possible marker for de novo lipogenesis, by LC-ESI-MS/MS
J Lipid Res, 50, 2124-2130, 2009
- 170) Miyazaki T, Honda A, Ikegami T, Hara T, Saitoh Y, Hirayama T, Doy M, Matsuzaki Y
The associated markers and their limitations for the primary screening of HCV carriers in public health examination
Hepatology Research, 39 (7), 664-674, 2009
- 171) 松崎靖司
C型肝炎と肝癌 -肝炎から肝癌まで：とくに慢性C型肝炎治療の最近の知見-
理大科学フォーラム, 12, 14-19, 2009
- 172) Toyoda H, Kumada T, Kiriya S, Tanikawa M, Hisanaga Y, Kanamori A, Tada T, Murakami Y.
Higher hepatic gene expression and serum levels of matrix metalloproteinase-2 are associated with steatohepatitis in non-alcoholic fatty liver diseases.
Biomarkers.18(1),Jun-78,2013
- 173) Kumada T, Toyoda H, Tada T, Kiriya S, Tanikawa M, Hisanaga Y, Kanamori A, Niinomi T, Yasuda S, Andou Y, Yamamoto K, Tanaka J.
Effect of nucleos(t)ide analogue therapy on hepatocarcinogenesis in chronic hepatitis B patients: A propensity score analysis.
J Hepatol,58 ,427-433,2013
- 174) Toyoda H, Kumada T, Shimada N, Takaguchi K, Ide T, Sata M, Ginba H, Matsuyama K, Izumi N.
Baseline factors and early viral response (week4)

- to antiviral therapy with peginterferon and ribavirin for predicting sustained virologic response in patients infected with hepatitis C virus genotype 1: a multicenter study. *J Med Virol.*85(1),65-70,2013
- 175) Toyoda H, Kumada T, Tada T, Niinomi T, Ito T, Sone Y, Kaneoka Y, Maeda A. Non-hypervascular Hypointense Nodules Detected by Gd-EOB-DTPA-enhanced MRI is a Risk Factor for Recurrence of HCC after Hepatectomy *J Hepatol.*2013
- 176) Toyoda H, Kumada T, Favorable association between genetic polymorphisms near the IL28B gene and hepatic steatosis: direct or indirect?, *J Hepatol.*56,738-739, 2012
- 177) Kanke F, Kumada T, Toyoda H, Satomura S, Reference change values for lens culinaris agglutinin-reactive alpha-fetoprotein and des-gamma-carboxy prothrombin in patients with chronic hepatitis C, *Clin Chem Lab Med*, 50(5),957-960, 2012
- 178) Toyoda H, Kumada T, Incidence of HCC and response to IFN therapy in HCV-infected patients: effect of factors associated with the therapeutic response and incidence of HCC, *Liver Int*, 32(6), 1029-1031, 2012
- 179) Hayashi K, Katano Y, Kuzuya T, Tachi Y, Honda T, Ishigami M, Itoh A, Hirooka Y, Ishikawa T, Nakano I, Urano F, Yoshioka K, Toyoda H, Kumada T, Goto H, Prevalence of hepatitis C virus genotype 1a in Japan and correlations of mutations in the NS5A region and single-nucleotide polymorphism of interleukin 28B with the response to combination therapy with pegylated-interferon-alpha2b and ribavirin, *J Med Virol.*84,438-444, 2012
- 180) Toyoda H, Kumada T, Kiriyama S, Tanikawa M, Hisanaga Y, Kanamori A, Tada T, Markedly lower follow-up rate after liver biopsy in patients with non-alcoholic fatty liver diseases than those with viral hepatitis in Japan, *BMC Res Note*,4,341, 2012
- 181) Murakami Y, Toyoda H, Tanahashi T, Tanaka J, Kumada T, Yoshioka Y, Kosaka N, Ochiya T, Taguchi YH Comprehensive miRNA expression analysis in peripheral blood can diagnose liver disease. *PLoS One*,7,2012
- 182) Toyoda H, Kumada T, Tada T, Hayashi K, Honda T, Katano Y, Goto H, Kawaguchi T, Murakami Y, Matsuda F. Predictive value of early viral dynamics during peginterferon and ribavirin combination therapy based on genetic polymorphisms near the IL28B gene in patients infected with HCV genotype 1b. *J Med Virol.*84(1),61-70,2012
- 183) Toyoda H, Kumada T, Tada T, Sone Y, Fujimori M Transarterial chemoembolization for hepatitis B virus-associated hepatocellular carcinoma: improved survival after concomitant treatment with nucleoside analogues. *J Vasc Interv Radiol.*23(3),317-22,2012
- 184) Hayashi K, Katano Y, Kuzuya T, Tachi Y, Honda T, Ishigami M, Itoh A, Hirooka Y, Ishikawa T, Nakano I, Urano F, Yoshioka K, Toyoda H, Kumada T, Goto H. Prevalence of hepatitis C virus genotype 1a in Japan and correlation of mutations in the NS5A region and single-nucleotide polymorphism of interleukin-28B with the response to combination therapy with pegylated-interferon-alpha 2b and ribavirin. *J Med Virol.*84(3),438-44,2012
- 185) Toyoda H, Kumada T. Favorable association between genetic polymorphisms near the IL28B gene and hepatic steatosis: direct or indirect? *J Hepatol.*56(3),738-9,2012
- 186) Toyoda H, Kumada T, Osaki Y, Tada T, Kaneoka Y, Maeda A. Novel method to measure serum levels of des-gamma-carboxy prothrombin for hepatocellular carcinoma in patients taking warfarin: a preliminary report. *Cancer Sci.*103(5),921-5,2012
- 187) Toyoda H, Kumada T. Incidence of hepatocellular carcinoma and response to interferon therapy in HCV-infected patients: effect of factors associated with the therapeutic response and incidence of HCC. *Liver Int.*32(6),1029-31,2012
- 188) Arao T, Ueshima K, Matsumoto K, Nagai T, Kimura H, Hagiwara S, Sakurai T, Haji S, Kanazawa A, Hidaka H, Iso Y, Kubota K, Shimada M, Utsunomiya T, Hirooka M, Hiasa Y, Toyoki Y, Hakamada K, Yasui K, Kumada T, Toyoda H, Sato S, Hisai H, Kuzuya T, Tsuchiya K, Izumi N, Arii S, Nishio K, Kudo M. FGF3/FGF4 amplification and multiple lung metastases in responders to sorafenib in hepatocellular carcinoma. *Hepatology.*12-Aug,2012
- 189) Toyoda H, Kumada T, Katano Y, Goto H. Week 4 viral response to peginterferon and ribavirin: how should it be used in combination with a baseline predictive factor? *J Hepatol.* 57(4), 927-8, 2012
- 190) Hayashi K, Katano Y, Masuda H, Ishizu Y, Kuzuya T, Honda T, Ishigami M, Itoh A, Hirooka Y, Nakano I, Ishikawa T, Urano F, Yoshioka K, Toyoda H, Kumada T, Goto H. Pegylated interferon monotherapy in patients with chronic hepatitis C with low viremia and its relationship to mutations in the NS5A region and the single nucleotide polymorphism of

- interleukin-28B.
Hepatol Res.2012
- 191) Toyoda H, Kumada T, Shimada N, Takaguchi K, Ide T, Sata M, Ginba H, Matsuyama K, Izumi N. Significance of a reduction in HCV RNA levels at 4 and 12 weeks in patients infected with HCV genotype 1b for the prediction of the outcome of combination therapy with peginterferon and ribavirin.
BMC Infect Dis,12(1),2012
- 192) Toyoda H, Kumada T, Tada T, Kaneoka Y, Maeda A.
Placement of a sodium hyaluronate solution onto the liver surface as a supportive procedure for radiofrequency ablation of hepatocellular carcinomas located on the liver surface: a preliminary report.
J Vasc Interv Radiol,23(12),1639-1645,2012
- 193) Toyoda H, Kumada T, Tada T, Niinomi T, Ito T, Kaneoka Y, Maeda A.
Prognostic significance of a combination of pre- and post-treatment tumor markers for hepatocellular carcinoma curatively treated with hepatectomy.
J Hepatol.,57(6),1251-7,2012
- 194) Toyoda H, Kumada T, Tada T.
Lower incidence of hepatocellular carcinoma in patients with transient virologic response to peginterferon and ribavirin combination therapy: Is it really the effect of the therapy?
J Hepatol.2012
- 195) Honda T, Katano Y, Kuzuya T, Hayashi K, Ishigami M, Itoh A, Hirooka Y, Nakano I, Ishikawa T, Toyoda H, Kumada T, Yamamoto K, Matsushita T, Kojima T, Takamatsu J, Goto H. Comparison of the efficacy of ribavirin plus peginterferon alfa-2b for chronic hepatitis C infection in patients with and without coagulation disorders.
J Med Virol.85(2),228-34,2012
- 196) Kumada T, Toyoda H, Kiriyaama S, Tanikawa M, Hisanaga Y, Kanamori A, Tada T, Tanaka J. Characteristics of elderly hepatitis C virus-associated hepatocellular carcinoma patients.
J Gastroenterol Hepatol.28(2),357-64,2012
- 197) 多田 俊史, 熊田 卓, 桐山 勢生, 谷川 誠, 豊田 秀徳, 久永 康宏, 金森 明, 新家 卓郎, 安東 直人, 坂井 圭介, 安田 諭, 木村 純, 安藤 祐資, 山本 健太
【B型肝炎の抗ウイルス療法の進歩と耐性】 B型肝炎に対する核酸アナログ投与例の長期予後
消化器内科,54巻5号,608-613,2012
- 198) 貴田岡 正史, 熊田 卓, 松田 康雄, 飯島 尋子, 小川 眞広, 工藤 信樹, 小原 和史, 紺野 啓, 高倉 玲奈, 西田 睦, 南 康範, 森 秀明, 山田 昌彦
肝腫瘍の超音波診断基準
超音波医学,39巻3号,317-326,2012
- 199) 熊田 卓, 豊田 秀徳, 多田 俊史, 金森 明, 竹島 賢治, 乙部 克彦
【肝癌の造影超音波検査】 造影超音波診断(症例編) 肝細胞癌以外の肝腫瘍典型例
Medical Technology,別冊超音波エキスパート 13,43-58,2012
- 200) 熊田 卓
肝機能性画像の肝細胞癌診断における役割
肝臓フォーラム記録集,2011巻,205-217,2012
- 201) 熊田 卓
肝細胞癌の診断、治療、予防の最前線 肝細胞癌 発生の最近の動向
肝臓フォーラム記録集,2011巻,26-34,2012
- 202) 多田 俊史(大垣市民病院 消化器内科), 熊田卓, 桐山 勢生, 谷川 誠, 豊田 秀徳, 久永 康宏, 金森 明, 曾根 康博, 小川 定信
【早期肝細胞癌の画像診断update】 大垣市民病院におけるEOB-MRIの肝細胞相で検出される乏血性結節の自然経過
肝胆膵画像,14巻4号,345-350,2012
- 203) 多田 俊史, 熊田 卓, 豊田 秀徳
【見逃してはいけない消化器疾患-消化器救急疾患・消化器癌を中心に-】 消化器癌の見逃しを防ぐ早期発見・適切な治療のための診断の実際 肝臓癌, 消化器の臨床,15巻1号,75-81,2012
- 204) Toyoda H, Kumada T, Kiriyaama S, Tanikawa M, Hisanaga Y, Kanamori A, Tada T, Hosokawa T, Arakawa T, Fujimori M
Outcome in partial early virologic responders to combination therapy with peginterferon and ribavirin in patients infected with hepatitis C virus genotype 1b
J Med Virol, 83(1), 101-7, 2011
- 205) Toyoda H, Kumada T, Kaneoka Y, Maeda Q
Amino Acid Substitutions in the Hepatitis C Virus Core Region are Associated with Post-operative Recurrence and Survival of Patients with HCV Genotype 1b-associated Hepatocellular Carcinoma
Annals of Surgery, 254(2),326-332,2011
- 206) Toyoda H, Kumada T, Kaneoka Y, Maeda A, Kanke F, Satomura S
Clinical Utility of High Sensitive Lens Culinaris Agglutinin-Reactive Alpha-Fetoprotein in Hepatocellular Carcinoma Patients with Alpha-Fetoprotein <20 ng/mL
Cancer Sci, 102(5),1025-1031, 2011
- 207) Kumada T, Toyoda H, Arakawa T, Sone Y, Fujimori M, Ogawa S, Ishikawa T
Evolution of hypointense hepatocellular nodules observed only in the hepatobiliary phase using Gd-EOB-DTPA enhanced magnetic resonance imaging
Am J Roentgenol, 197(1),58-63, 2011
- 208) Kumada T, Toyoda H, Kiriyaama S, Tanikawa M, Hisanaga Y, Kanamori A, Tada T, Tanaka J, Yoshizawa H
Predictive value of tumor markers for hepatocarcinogenesis in patients with hepatitis C virus
J Gastroenterol,46(4),536-544,2011

- 209) Kudo M, Hatanaka K, Kumada T, Toyoda H, Tada T
Double contrast ultrasound: a novel surveillance tool for hepatocellular carcinoma
Am J Gastroenterol, 106(2),368-370, 2011
- 210) Toyoda H, Kumada T, Kiriya S, Tanikawa M, Hisanaga Y, Kanamori A, Tada T, Arakawa T, Fujimori M, Niinomi T, Ando N, Yasuda S, Sakai K, Kimura J
High ability to predict the treatment outcome of peginterferon and ribavirin combination therapy based on the reduction in HCV RNA levels at 4 weeks after starting therapy and amino acid substitutions in hepatitis C virus in patients infected with HCV genotype 1b
J Gastroenterol, 46(4),501-509, 2011
- 211) Hayashi K, Katano Y, Ishigami M, Itoh A, Hirooka Y, Nakano I, Urano F, Yoshioka K, Toyoda H, Kumada T, Goto H.
Mutations in the core and NS5A region of hepatitis C virus genotype 1b and correlation with response to pegylated-interferon-alpha 2b and ribavirin combination therapy
J Viral Hepat, 18(4), 280-286, 2011
- 212) Inaba Y, Arai Y, Yamaura H, Sato Y, Najima M, Aramaki T, Sone M, Kumada T, Tanigawa N, Anai H, Yoshioka T, Ikeda M for Japan Interventional Radiology in Oncology Study Group (JIVROSG)
Phase I/II study of hepatic arterial infusion chemotherapy with gemcitabine in patients with unresectable intrahepatic cholangiocarcinoma (JIVROSG-0301)
Am J Clin Oncol., 34(1),58-62, 2011
- 213) Hayashi K, Katano Y, Honda T, Ishigami M, Itoh A, Hirooka Y, Ishikawa T, Nakano I, Toyoda H, Kumada T, Goto H,
Association between interleukin 28B and mutations in the core & NS5A region of hepatitis C virus with response to peg-interferon and ribavirin therapy.
Liver Int,31,1359-1565, 2011
- 214) Toyoda H, Kumada T, Tada T, Sone Y, Kaneoka Y, Maeda A,
Characteristics and prognosis of patients with hepatocellular carcinoma after the year 2000 in Japan.
J Gastroenterol Hepatol, 26, 1765-1771, 2011
- 215) Toyoda H, Kumada T, Hayashi K, Honda T, Katano Y, Goto H, Kawaguchi T, Murakami Y, Matsuda F,
Antiviral combination therapy with peginterferon and ribavirin does not induce a therapeutically resistant mutation in the HCV core region regardless of genetic polymorphism near the IL28B gene.
J Med Virol,83,1559-1564, 2011
- 216) Onomoto K, Morimoto S, Kawaguchi T, Toyoda H, Tanaka M, Kuroda M, Uno K, Kumada T, Matsuda F, Shimotohno K, Fujita T, Murakami Y,
Dysregulation of FIN system can lead poor response to pegylated interferon and ribavirin therapy in chronic hepatitis C,
PLoS ONE,6,e19799, 2011
- 217) Toyoda H, Kumada T, Tada T, Kawaguchi T, Murakami Y, Matsuda F,
Impact of genetic polymorphisms near the IL28B gene and amino acid substitutions in the hepatitis C virus core region on interferon sensitivity/resistance in patients with chronic hepatitis C.,
J Med Virol,83,1203-1211, 2011
- 218) Toyoda H, Kumada T, Tada T, Kaneoka Y, Maeda A, Kanke F, Satomura S,
Clinical utility of high sensitive lens culinaris agglutinin-reactive alpha-fetoprotein in hepatocellular carcinoma patients with alpha-fetoprotein level less than 20 ng/mL,
Cancer Sci,102,1025-1031, 2011
- 219) Toyoda H, Kumada T, Kaneoka Y, Maeda A, Amino acid substitutions in the hepatitis C virus core region are associated with post-operative recurrence and survival of patients with HCV genotype 1b-associated hepatocellular carcinoma,
Ann Surg,254,326-332, 2011
- 220) Toyoda H, Kumada T, Tada T,
Highly sensitive Lens culinaris agglutinin-reactive alpha-fetoprotein (hs-AFP-L3): a new tool for the management of hepatocellular carcinoma,
Oncology,81,S61-S65, 2011
- 221) Matsushima-Nishiwaki R, Adachi S, Yoshioka T, Yasuda E, Yamagishi Y, Matsuura J, Muko M, Iwamura R, Noda T, Toyoda H, Kaneoka Y, Okano Y, Kumada T, Kozawa O,
Suppression by heat shock protein 20 of hepatocellular carcinoma cell proliferation via inhibition of the mitogen-activated protein kinases and AKT pathways,
J Cell Biochem, 112, 3430-3439, 2011
- 222) 豊田秀徳、熊田卓,
C型肝炎のすべて2012 HCVと発癌 HCV治療後発癌,
肝胆膵,63,1009-1014, 2011
- 223) 多田俊史、熊田卓、桐山勢生、谷川誠、久永康宏、豊田秀徳、金森明,
【混合型肝癌および胆管形質を示す肝細胞癌:肝ステム細胞のインパクト】混合型肝癌(肝癌取扱い規約を中心に)疫学臨床 混合型肝癌の臨床・生化学的特徴,
肝胆膵,63,573-582, 2011
- 224) 坂井圭介、熊田卓、豊田秀徳、桐山勢生、谷川誠、久永康宏、金森明、多田俊史、新家卓郎、安東直人、安田論、安藤祐資、山本健太、木村純,
【B型肝炎に対する新治療戦略】肝発癌を視野に入れたB型肝炎の治療戦略,
消化器内科,53,326-330, 2011

- 225) 多田俊史、熊田卓、桐山勢生、谷川誠、豊田秀徳、久永康宏、金森明、曾根康博、小川定信、【肝細胞癌の化学療法-分子標的療法の進歩と効果判定】各論 肝細胞癌の化学療法の治療効果判定 Dynamic MRIによる治療効果判定、肝胆膵画像,13,619-626, 2011
- 226) 熊田卓、豊田秀徳、多田俊史、【肝炎・肝癌の新しい診断と治療】(Session 3)C型肝炎 高齢者C型肝炎ではALT低値、血小板高値でも発癌する、犬山シンポジウム,28,125-130, 2011
- 227) 熊田卓、豊田秀徳、多田俊史、【早期肝細胞癌:病理と画像のinterplay】早期肝細胞癌の治療の開始時期について、肝臓,52,441-448, 2011
- 228) 竹島賢治、高橋健一、乙部克彦、加藤廣正、今吉由美、川島望、坂野信也、熊田卓、豊田秀徳、多田俊史、安東直人、【肝疾患における最新の超音波診断】肝臓の精密診断 肉眼型・分化度・進展度診断 結節型肝細胞癌のB-モード所見および造影超音波による染色パターンと肉眼所見の対比、Rad Fan,9,66-68, 2011
- 229) 多田俊史、熊田卓、豊田秀徳、竹島賢治、小川定信、高田賢、【All About Gd-EOB-DTPA MRI】Gd-EOB-DTPA造影MRI・微小肝細胞癌の検出能について、臨床画像,27,310-317, 2011
- 230) 乙部克彦、竹島賢治、今吉由美、高橋健一、丹羽文彦、坂野信也、奥村恭己、熊田卓、豊田秀徳、脂肪肝の超音波所見のスコア化と肝生検組織像との比較、日本病院会雑誌,2,178-181, 2011
- 231) Toyoda H, Kumada T, Kiriya S, Tanikawa M, Hisanaga Y, Kanamori A, Tada T, Takagi M, Hiramatsu T, Hosokawa T, Arakawa T, Fujimori M
An early viral response to standard interferon-alpha identifies resistance to combination therapy with peginterferon and ribavirin in patients infected by HCV genotype 1
J Med Virol, 82, 1537-1544, 2010
- 232) Arai S, Sata M, Sakamoto M, Shimada M, Kumada T, Shiina S, Yamashita T, Kokudo N, Tanaka M, Takayama T, Kudo M
Management of hepatocellular carcinoma: report of consensus meeting in the 45th annual meeting of the Japan Society of Hepatology (2009)
Hepatol Res, 40, 667-685, 2010
- 233) Kaneoka Y, Yamaguchi A, Isogai M, Kumada T
Survival benefit of hepatopancreatoduodenectomy for cholangiocarcinoma in comparison to hepatectomy or pancreatoduodenectomy
World J Surg, 34, 2662-2670, 2010
- 234) Toyoda H, Kumada T, Kiriya S, Tanikawa M, Hisanaga Y, Kanamori A, Tada T, Takagi M, Hiramatsu T, Hosokawa T, Arakawa T, Fujimori M
Transient reappearance of serum hepatitis C virus RNA observed by real-time PCR during antiviral therapy with peginterferon and ribavirin in patients with HCV genotype 1b
J Clin Virol, 47, 258-262, 2010
- 235) Shigoka M, Tsuchida A, Matsudo T, Nagakawa Y, Saito H, Suzuki Y, Aoki T, Murakami Y, Toyoda H, Kumada T, Bartenschlager R, Kato N, Ikeda M, Takashina T, Tanaka M, Suzuki R, Oikawa K, Takanashi M, Kuroda M
Deregulation of miR-92a expression is implicated in hepatocellular carcinoma development
Pathol Int, 60, 351-357, 2010
- 236) Toyoda H, Kumada T, Tada T, Arakawa T, Hayashi K, Honda T, Katano Y, Goto H
Association between HCV amino acid substitutions and outcome of peginterferon and ribavirin combination therapy in HCV genotype 1b and high viral load
J Gastroenterol Hepatol, 25, 1072-1078, 2010
- 237) Yasuda E, Kumada T, Toyoda H, Kaneoka Y, Maeda A, Okuda S, Yoshimi N, Kozawa O
Evaluation of clinical utility of Glypican-3 (GPC3), measured by a commercially available ELISA kit with GPC3 antibody, as a serological and histological marker for hepatocellular carcinoma
Hepatol Res, 40, 477-485, 2010
- 238) Kumada T, Toyoda H, Kiriya S, Sone Y, Tanikawa M, Hisanaga Y, Kanamori A, Atsumi H, Takagi M, Arakawa T, Fujimori M
Incidence of hepatocellular carcinoma in patients with chronic hepatitis B virus infection who have normal alanine aminotransferase values
J Med Virol, 82, 539-545, 2010
- 239) Hayashi K, Katano Y, Ishigami M, Itoh A, Hirooka Y, Nakano I, Yoshioka K, Yano M, Toyoda H, Kumada T, Goto H
Prevalence and clinical characterization of patients with acute hepatitis B induced by lamivudine-resistant strains
J Gastroenterol Hepatol, 25, 745-749, 2010
- 240) Honda T, Katano Y, Shimizu J, Ishizu Y, Doizaki M, Hayashi K, Ishigami M, Itoh A, Hirooka Y, Nakano I, Urano F, Yoshioka K, Toyoda H, Kumada T, Goto H.
Efficacy of peginterferon-alfa 2b plus ribavirin in patients aged 65 years and older with chronic hepatitis C
Liver Int, 30, 527-537, 2010
- 241) 多田俊史、熊田卓、桐山勢生、豊田秀徳
生存分析からみた進行肝細胞癌に対するソラフェニブ投与例の検討
肝臓, 51, 684-685, 2010
- 242) 小川定信、川地俊明、船坂佳正、石川照芳、熊田卓、豊田秀徳、曾根康博

- 【肝臓のEOB・プリモビスト造影MRI 本検査を有効に活用するための理解すべき課題】 肝細胞癌 肝細胞造影相でhypointensityを呈する乏血性結節(非濃染結節)のリスクについて
日独医報, 55, 267-272, 2010
- 243) 熊田卓
【肝臓治療とDPC】 DPCとは
消化器内科, 51, 267-272, 2010
- 244) 熊田卓、松田康雄、飯島尋子、小川眞広、工藤信樹、小原和史、紺野啓、高倉玲奈、西田陸、南康範、森秀明、山田昌彦
日本超音波医学会用語・診断基準委員会肝腫瘍の超音波診断基準(案)
超音波医学, 37, 157-166, 2010
- 245) 熊田卓、豊田秀徳、桐山勢生、谷川誠、久永康宏、金森明、多田俊史、高木万起子、細川貴範、荒川恭宏、藤森将志、濱口知成
【肝疾患における血液生化学検査、肝炎ウイルスマーカー、腫瘍マーカーの見方】 肝疾患における血液生化学検査の臨床的意義 AST、ALT、AST/ALT 肝・胆・膵, 60, 521-530, 2010
- 246) 多田俊史、熊田卓、豊田秀徳、桐山勢生、竹島賢治、小川定信、乙部克彦、中野雅行
肝細胞癌の診断におけるperfluorobutane造影超音波とGd-EOB-DTPA造影MRIの有用性に関する検討
肝臓, 31, 99-106, 2010
- 247) 多田俊史、熊田卓、豊田秀徳、桐山勢生、谷川誠、久永康宏
【肝臓診療のアルゴリズム2010】 肝臓の診断 肝臓スクリーニングにおける腫瘍マーカー
臨床消化器内科, 25, 437-442, 2010
- 248) 大島靖広、馬淵正敏、小原功輝、岩砂淳平、安藤暢洋、岩田圭介、芋瀬基明、清水省吾、安田一朗、松橋延壽、前田健一、河合雅彦、岩田仁、國枝克行、杉原潤一
胆道出血を伴う胆嚢小細胞癌の1症例
肝胆膵治療研究会誌10 (1) ,67-72,2012
- 249) 安藤暢洋、加藤潤一、馬淵正敏、小原功輝、岩砂淳平、大島康広、岩田圭介、芋瀬基明、大西隆哉、清水省吾、杉原潤一、岩田仁、安田一朗、森脇久隆
膵漿液性嚢胞腺腫に膵腺扁平上皮癌を合併した1例
日本消化器病学会雑誌,109,442-450,2012
- 250) 清水省吾、杉原潤一、岩砂淳平、出田貴康、馬淵正敏、安藤暢洋、大島康広、芋瀬基明、大西隆哉
肝硬変患者における分岐鎖アミノ酸製剤の切り替えの有用性について
消化器内科,52 (5) ,554-558,2011
- 251) Tomita E, Ando K, Sugihara J, Nishigaki Y, Yamada T, Ando R, Teramura M, Seishima M
Advantage of IFN- β / α 2b same day administration for ribavirin-intolerant patients with chronic hepatitis C
Hepatol Res, 40, 261-268, 2010
- 252) Imai K, Takai K, Nishigaki Y, Shimizu S, Nakai T, Hayashi H, Uematsu T, Sugihara J, Tomita E, Shimizu M, Nagaki M, Moriwaki H
Insulin resistance raises the risk for recurrence of stage I hepatocellular- carcinoma after curative radiofrequency ablation in HCV-positive patients : A prospective, case-series study
Hepatol Res, 41, 376-382, 2010